

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護実践及び専門領域上の自己の課題を探究するために、主体的に既習の知識・技術の統合を図りながら、課題への適切な介入の方法を討議・検討し、実習計画を立案する。看護総合演習での成果を基に、レポートを作成し、実習における実践を考察するものである。そのため、学生個々の課題への達成感を得るために学習段階を学生自身が実感しながら、実習を通して現場で提示された課題に対してさらに議論を深め、主体的学習が進むための学習支援を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、94.3(91.1)点であり、全員が理想的レベルに達した。 目標別にみると、知識理解に関しては91.9(87.5)%、意欲・関心に関しては100(99.9)%、態度に関しては100(100)%であった。 学生の到達度自己評価においては、4.0から4.6となっている。 昨年度（2018年度）の評価と比較して、多くの項目で上昇している。メンバーのリーダーシップ及び個々の学生が主体的に学習していく、エンパワメントが機能した結果ともいえる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、「専門教育科目」の「看護実践の統合」と位置付けられている。「看護実践の統合」は、看護関連科目の学習が進んでいく中で統合されていく状況である。本科目は、最終履修学年である4年であることから、まさに学習の集大成と位置付けられる。結果、最終成績評価からみた場合、目標を達成できていると判断でき、看護への新たな目標を学生自身が確認できたのではないかと考えられる。加えて、看護を生涯学習することの意味の理解につなげることができたのではないかと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年と同様に科目が開始した4月～5月の段階では、学生自身がどのように学習を進めていけばいいのか模索している状況が見られた。そのため、「何をしたらいいのか」と具体的方法を探すことに目が行きがちな学生に、文献学習の期間に費やし、議論を進めるための基盤づくりを徹底した。そのことにより、学生自身が看護総合実習で何を学習する意義を見出すか明確となり、実習を意欲的に実施することができ、達成感を得ることに繋がった。また、基盤づくりの準備状況が実習指導者にも評価されることにより、専門職としての意識を高めることにも繋がった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	科目が開始した4月～5月の段階では、学生自身がどのように学習を進めていけばいいのか模索している状況が見られた。そのため、「何をしたらいいのか」と具体的方法を探すことに目が行きがちな学生に、文献学習の期間に費やし、議論を進めるための基盤づくりを徹底した。そのことにより、学生自身が看護総合実習で何を学習する意義を見出すか明確となり、実習を意欲的に実施することができ、達成感を得ることに繋がった。また、基盤づくりの準備状況が実習指導者にも評価されることにより、専門職としての意識を高めることにも繋がった。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合演習は必修科目であり、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられている。今回の受講動機をみると、「必修科目である」が28.6%で、「資格取得に必要である」が71.4%であった。学生は、この科目について、必修科目や資格取得に必要と認識し受講している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績としては、90.0点（±3.4）であり、全員が「優」もしくは「秀」の成績であった。 目標別にみる達成度（達成レベルを80%とする）は、思考判断が83.1%、関心意欲が90.0%、態度が87.9%で、DPとしては達成したと考える。 学生の到達度自己評価は、全ての項目で平均値は4.1～4.6であった					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられた必修科目である。学生が十分な成績を収めていることから、カリキュラムマップ上の位置づけからみて内容的には妥当であると考ええる。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から、すべての項目が達成されている。内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この授業、「授業の質」に対する学生の評価は、4.3～4.6であった。 学生の「学習量」は、準備および復習ともに個人差がみられた。 学生の「情報利用」、ほとんどの学生は、シラバス活用し、計画を立てて、履修していたが、そうでない学生が若干みられた。 学生の「図書館の利用」について、学生はレポートを作成するために、図書やデータベースやインターネットなど全ての項目で活用していた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護総合演習は必修科目であり、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられ、総括的な科目である。今年度は、3年次の「看護研究の基礎」の講義を確認しながら進めた。また、各学生のレポート作成の支援は、各学生の実習時期が異なるため、その学生の実習後に個別指導の機会を多くとって進めた。学生の評価から、個々の学生が、自分のレポート作成に取り組めたことが伺える。次年度も個々の学生の取り組みの進行状況を把握しながら指導を進めていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	吉原 悦子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の自己の課題を探究するための科目である。適切な実習計画を立てるためにも、まず、自己の課題を見つけるために文献検討を行い、プレゼンテーションを行う機会を設けた。しかし、自由なディスカッションは難しい状況であったため、1つ1つ文献を読みながらそれぞれ学生の気づきを聞いて行った。文献を検討し、どのような実習を行っていくのかを検討する時期は臨地実習と重なる学生もいるため、全員の進度が一致することは難しいため、集団と個別の指導を組み合わせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合評価の平均点は86点であり、全員が標準的レベルに達していた。 DP観点別の成績では、思考・判断（DP2-1）は、50/60点（得点率83%）、関心・意欲（DP3-1）は、17/20点（得点率85%）、態度（DP4-1）は、17/20点（得点率85%）であった。 学生の到達度自己評価では「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が最も高く4.2点であった。ついで「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」、「事象（自然・人・社会・歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとする専門分野においてさまざまな課題を検討する力を得ることができた」が4.0点で、最も低かったのは、「自分なりの目標を達成した」が3.7点であった。 授業の質の評価では、4.0-4.2点の平均であった。 学習量の評価では、授業の予習・復習を4回以上行っているものが5人であり個人差があった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、看護の統合の科目として位置づけられており、自ら課題を見出し、解決に向かう総合実習の前段階の演習である。集大成の実習に向け、主体的に学習をする科目である。この課題に向け、文献学習を行い、ゼミメンバーでの検討をするなど、学生も積極的に取り組んでおり、一定の成績を修めており内容的には妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この演習では、5人が図書館の雑誌を利用しており、来年も継続できるように指導をしていく。しかし、1名が無回答であり、来年度は、学術データベースの使用も含めて、1年次の基礎ゼミの講義の中で説明をおこなっており、これまでの学習内容を想起させるようなかわりが必要であると考ええる。また、個人差があるため、ゼミ全体だけではなく、個と集団での指導内容を検討する必要がある。看護の統合として、自己の課題を探索し、適切な介入方法を検討することができるように指導していくことを次年度も継続していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、看護の統合の科目として位置づけられている。上記に示した評価点、DP観点別評価、学生の自己評価などから見て標準的な達成はできたと考える。自ら課題を見出し、解決に向かう総合実習の前段階の演習で、看護の統合にむけた集大成の実習に向け、主体的に学習ができるように次年度も指導していく。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合演習の基礎看護学領域(看護技術)においては、学生が既習の知識、技術を活用し、4年間のまとめとして主体的に学習することを重要と考えている。看護総合実習前に、学生は、学習したい看護技術に関するテーマを設定し、テーマに沿って自己学習する。また、実習計画案を作成して実習病院の指導者に事前に説明して実習の準備を行うこととしている。看護総合実習終了後は、実習記録以外に、実習で経験したことをもとにテーマに沿って文献を活用してレポートを作成する。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	看護総合実習前に、テーマに沿って行う自己学習は、自主的に取り組むことができた。また、実習計画の立案については、自主的に取り組むことができたが、実習病院で可能かどうかを確認した。病院の実習指導者への説明の場を2回設定し、助言を得て実習計画を立案し、実習中に修正して実習を行うことができた。しかし、看護総合実習後のレポートの作成においては、各学生で取り組みに個人差があり、文献の活用が不十分なままレポートを提出した人や期限に提出できない人がいた。そのため、個人差はあるが、全体的に思考判断、意欲・関心、態度に関する達成はやや達成された状況と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講者の受講動機は単位の取得である。カリキュラムマップからみた科目の位置づけは、4年間の最後の総まとめの学習に位置付けられる。そのため、1年次から4年次までに修得した能力を活用し、自己の課題を設定して学習し、文献を活用してレポートを作成する過程において、行動目標の思考判断を重視し、意欲・関心、態度の面でも積極性が求められるため、内容的に妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、受講者7人の他の科目の講義、演習、実習のスケジュールが異なるため、主に、個人学習を中心に進めた。今後は、相互に学ぶためのグループでのディスカッションの回数を検討し、プレゼンテーションや文献活用の相互の学びの場を検討する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講生は、自己学習は主体的に取り組んでいたが、達成度に個人差がみられた。文献を活用して思考判断する能力と意欲・関心、態度、レポートの作成の仕方などに違いがあったため、個人指導はもちろんのこと、今後の課題として、グループでの意見交換、プレゼンテーションなどの設定について検討する。また、実習施設の場所と時期により、実習計画案の内容変更と実習病院指導者との打合せ会の設定などが課題である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	私は、今年度から「看護マネジメント論」の集中講義を前期に担っている。この授業を選択する学生は大多数が、この総合演習のゼミ学生である。よって、ゼミを効果的・効率的に進行していくために、まずはこの授業との連動を心掛けた。学生は3年次からの各領域の看護実習継続段階にあり、一人の看護師として、患者・看護師間だけの視点で医療・看護を思考する傾向にあることを鑑み、まずは集中講義の中で、看護マネジメントとは何か、組織とは何か、病院・看護の役割とは何か、チーム医療の必要性等を軸に、1対1ではなく、「病院全体を上空から見ようようなイメージ」をもつように指導し授業を行った。また授業はアクティブラーニング形式を取り、看護管理の総合実習場所となる、「医療安全管理部」や「退院調整部門」を例題にとりグループワークを行うようにし、「看護総合演習」の進捗状況に合わせるようにしていた。 この授業内容をもとに、週に1回はゼミを開催し、学生主体でゼミを進行してもらいながらファシリテートを行、また学生の理解の乏しい箇所に関しては、追加で講義を行うようにし、学生が特定機能病院の組織や医療・看護マネジメントを理解できるように努めた。このゼミを継続し、意見交換を図りながら実習計画書立案の支援を行い、学生は8月上旬に、実習先の大学病院の管理者に実習計画をプレゼンテーションを行った。実習先からは何点かの修正・変更はあったものの、わかりやすく的確なプレゼンテーションであったと評価を頂き、学生は成功体験を得ることができた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		やや達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生は4月～8月まで、各論実習、就職活動等との調整を図りながらも、「医療安全管理」「感染防止管理」「入院支援」「退院支援」「緩和ケア」「病棟運営」という、新たな学習を積極的に継続した、週に1回はゼミを開催し分担をしながら自己の課題を実践し準備を整えていた。メンバーによっては実習計画立案が進まない学生がいたが、他メンバーがフォローを行いグループダイナミクスを発揮していたと考える。図書館も全員が利用し予習・復習も密に行っており、このような自助努力が実習計画のプレゼンテーションの、全員が指定時間内に発表を行えた、施設の管理者からの質問にも答えることができたとなり、それが高い他者評価につながったと考える。実習計画の修正も期日までに行うことができ、実習予定日より実習を問題なく開始することができた。 総合演習は上記の意欲関心や態度面を評価し、総合得点は85.5点（最高93点、最低78点）と昨年度より高い評価としたが、実習先の指導者による総合実習の他者評価は平均78.3点（最高88点、最低76点）と昨年度よりも約5点低いものとなった。学生による到達度自己評価は「自分なりの目標を達成した」（4.0）で、それ以外の項目の平均値は4.2～4.3と高かったものの、指導者からの評価としては「もう少し管理的視点で実習を行うこと」へのアドバイスも認めた。学生は実習終了後の11月に小田ゼミと合同で実習報告を行い、また年度末までに約3000字の看護管理の学びの報告書も記載した。しかしこれらを行うにあたり、学びを看護管理の視点で記述することには課題を要し、教員の支援が相当必要な場面も認めたため、思考判断は「やや達成された」ととどまると考える。しかし相対的には就職活動、国家試験勉強と					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価では、看護の専門分野において、課題を検討する力の取得、的確な判断力、技術の習得、ルール遵守、職業選択において、平均点は4.0～4.3点と高評価であった。学生は、卒業し看護師として就職したときから、看護マネジメントを行う一員となる。このため病院と調整を図り、看護師がチーム内に存在し、看護マネジメントとして重要な部署として「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援室」「退院支援室」「緩和ケアセンター」「病棟」を抽出し学習と実習を行った。よって専門科目として知識の定着面、思考面において、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価でも平均点は全て4.3点であった。週に1回は2コマ程度のゼミを開催し、学生と意見交換等を行いながら学習支援を継続し、実習後も発表用スライド作成、実習報告書作成の支援も行った。特に学生からの意見はなく、お礼のみであったので、学生とはコミュニケーションを図りながらゼミ運営を行う、看護管理の演習・実習を遂行することができたと考える。だが病院組織はより複雑になり、チーム医療を介してマトリックス的な活動が増える中、組織に属していない学生が、広い視野で病院の全体像を理解することは容易ではない。それは学生の学びの自己評価と病院側の要求レベルに基づいた他者評価の乖離からも感じられる。よって私は前期の看護マネジメント論の集中講義を効果的・効率的に活用しながら、学生の看護マネジメントの理解をサポートする必要があり、左記の授業構成や、実習部門の厳選等に着手する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生による授業の質評価では4.0～4.3点であった。学生は「医療安全管理」「感染防止管理」「入院支援」「退院支援」「緩和ケア」「病棟運営」という、新たな学習を継続し、週に1回はゼミを開催し、図書館等を全員が利用し、日々予習・復習を行なった。演習・実習の総合得点は平均81.9点（最高88点、最低76点）と、昨年度よりやや約2点低いものであったが、グループダイナミクスや意欲関心、継続性といった側面では、昨年度の学生よりも努力していたと思う。学生による授業評価では「自分なりの目標を達成した」(4.0)であり、他の自己評価も全て4.2～4.3と高値であったため、学生は非常に大変だったと思うが、やりがいなどの心理的実感をもち達成感も得られたのではないかと考える。また実習後の報告会におけるスライド作成や、実習の学びの小論文の完成など、この実習での学びを形として残すこともできた。よって、この科目の目標は概ね達成されたと判断する。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	9月卒業生を含め、7人の学生を担当した。4月より総合看護実習のテーマに関する情報検索を開始し、5月には概ね総合看護実習の計画を策定し、7月末から8月にかけて総合看護学実習、9月実習報告書を完成した。昨年度に比べ、1か月ほど早い日程で進めた。 テーマの選定や実習方法の具体的な計画は、学生の興味・関心に沿い、それぞれのペースで進め、それに応じて個別に指導した。 学生はこの間、並行して就職活動にあたり、第1志望に内定した。それぞれの背景や、希望を言語化することを中心とした就職活動に関する指導を通して、情報収集や、自身の考えを整理して記述することが上達し、総合看護実習での実習計画の立案や、臨地実習先での調整を自律して進めることにつながった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		やや達成された	やや達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、 「学習到達度の自己評価」、 「学習量の評価」、 「学修のための情報利用」、 「図書館、インターネット利用」、 自由記述の意見など	受講者7人の平均点82.4点、最低77点、最高87点であった。実習課題に関する情報検索とその整理、実習計画立案、実習とその記録について、全ての学生が自律して取り組み、指導を受けてさらに修正、改善しようとする態度が見られた。臨地実習場所においては、それぞれが実習指導者や病棟師長、関連職種と連絡を取りながら日々の看護計画や実践を調整し、実践、報告している様子は、実習ラウンドで都度確認でき、実習生として望ましい行動がとれていた。最終的な成果物については、思考や踏み込んだ学習の不足が感じられる面があり、到達度としては概ね達成された水準と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	介護老人保健施設伸寿苑2名、小倉リハビリテーション病院5名のテーマは、認知症高齢者に対する回想法、運動療法、塗り絵の効果、睡眠障害の原因別のケア、口腔ケアにおける看護師の役割、食事量アップのための看護ケア、脳梗塞患者の障害受容過程についてで、高齢者看護の今日的課題とそのケアの方法について実践的に学び、その成果について医療チームと共有することにつながったと思われる。 また、これらのテーマはそれぞれの卒業後の希望進路に関連のあるもので、職業人あるいは看護専門職としての準備状態を高めるものとなったと考える。 実習プロセス、実習成果物において、意欲関心の焦点化、思考判断の成長、自律した学習の積み重ねが確認できた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	就職活動や総合看護学実習の進捗はよかったが、国試対策への取り掛かりが遅かった印象があり、学習習慣の確立のために、4月から老年看護学演習への参加、定期的な国試対策問題集の勉強会を実施したい。総合実習の進行日程については、あまり急ぎすぎず、その時々学生にとって大切なことを優先できるように日程的計画に幅を持たせたい。 また、自身が国家試験対策担当で、4年生全体の学習指導に注力していたが、2名が国家試験不合格となったため、学生個々に応じた細やかな指導をしたいと強く思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	評価項目すべてにわたって、「わりにそう思う」と回答しており、「かなりそう思う」でない理由について、他の教員の運営について情報を得ながら、満足度の向上に努めたい。 次年度に向けて、総合実習場所で実施可能な実習内容や、期待する学修内容を3年生に伝えるようにした。また、新3年生の老年看護学演習への参加を求め、教える役割をとることで自身の学習に役立ててもらうこと、強制的な集合学習の実施を計画している。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合演習では、 ①専門領域における自己の課題を明確にし、実習の目的を明らかにした。その目的にそって文献を検索させ、実習動機をまとめる作業を行う。と同時にタイムスケジュールを立てるよう指導する ②実習動機をまとめた後、どのような実習を実施したいかが明らかとなってくるため、並行して事前学習を進めながら、行動目標を作成するよう指導した。 ③実習期間7日間の実習方法と内容を実習目的・行動目標を考えながら作成させた。 技術演習として、挿管時の看護・12誘導心電図の装着・モニター心電図の装着・輸液ポンプの使用法・挿管チューブの固定方法を実技練習する（事前学習をさせ、当日は学生に実践させ、さらに質問をする形で進める）。清潔援助については、実習前に学生が自己練習を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	やや達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は84.8点、A判定（90+）0名、B判定（80-89）6名であり、全員が標準的レベルに達したと判断する。目標別にみると、思考判断87%、関心意欲73%、態度は100%であった。全体的に真面目に取り組む姿勢が見られ、目標達成に反映された。 学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は4.3.-4.7に推移しており、すべての項目において、全ての学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。 3名が、図書館の利用・インターネットによる文献検索・インターネットの利用しなかった回答しており、自らで新たな情報を取り入れながらの学んでいけるよう、指導をしなければならないと反省する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、4年間の集大成ともいえる科目である。学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では、思考判断87%、関心意欲73%、態度は100%であった。学生の学習到達度の自己評価をみると、6名全員目標を達成したと考えられており、平均点の84.8点から考えても、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、全員が「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」と回答しており、平均値も4.62であり、概ね説明は分かりやすく質問に対する対応もできていたと考える。 図書館や学術データベース、CiNiiを利用しレポート作成に取り組むことができよう、検索方法などについて、資料を配布し、さらに口頭で全員に説明したが、説明が不十分であった様子。今後は、口頭説明と資料配布だけでなく、実際に利用方法を見学させて学ばせるよう配慮していく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標については、概ね達成できたと考える。 今年度は、実習計画書作成中に、全員が実習レポートのアウトラインを捉えてから、実習に取り組んだため、実習中に必要なデータを収集することが出来ていた。 次年度も、全員の学生が実習前に、レポートのアウトラインを考えることができるよう、個々の学習レベルを考えながら時間調整し、指導していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年間の学びの集大成と位置づけた「看護総合実習」の準備に向けた科目である。学生は、3年次後期末の学科長によるORを基に、自らの関心に応じてゼミを選択・希望する。受け入れる教員は、当然、学生が各ゼミの主旨や概要を理解したうえで、自らの意思で、ゼミを選択するものと考ええる。 今回担当した学生7名の受講動機は、「必修科目である」が5名(71.4%)、「資格取得に必要である」が1名(14.3%)及び「関心のある内容である」が1名(14.3%)であった。ゼミを選択する際、「シラバスの記載を参考にした」が7名中4名、「あらかじめ授業の計画を立てた」が7名中6名、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」が6名中4名と、全体として、主体的・積極的に学習に取り組もうとの姿勢が窺えた。 本授業の中心はグループ学習活動にあることから、基本的には各学生の「調べ学習」に依るところが大きい。図書館利用について、7名中6名は図書館、学術データベース、インターネット等を積極的に利用し、「看護総合実習」に向けた学習準備に主体的に取り組んでいた。一方、いずれも「利用しなかった」と回答した学生も1名おり、当該学生については、演習全般及びその後の実習も含めて、ゼミへの興味・関心、チームへの協力、規律性、自身に課せられた課題の処理、役割遂行という点でメンバーシップを欠く面がみられ、学習貢献度は低かった。そうした態度・行動には、果たして自ら望んでのゼミ選択だったか、疑問が残った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価について、項目(1)「自分なりの目標を達成した」(3.9/4.0)は昨年とほぼ変わらず、全体的には、学部、学科のそれと同等またはやや低かった。項目(2)～(10)のうち「職業選択の参考になった」(4.4/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」(4.3/4.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.2/4.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.1/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(4.1/4.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.1/4.0)及び「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.1/4.0)の7項目で、平均値が中央値を上回っていた。 当該科目の学習活動の中心はグループワークである。従って、達成度評価は、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)及び技能表現(DP5)による。具体的な評価割合は、看護総合実習事前準備としての個人の「調べ学習」の成果：レポート(50%)、グループ学習後の口頭発表や個々のプレゼンテーション力 (20%)、実習終了後の報告書等の作成 (10%)及び基礎看護技術演習への参加度・貢献度 (20%)としている。 担当学生7名中6名は「調べ学習」に図書館、学術データベース、インターネット等を積極的に利用し、主体的に「看護総合実習」に向けた準備を進めていた。学びの深さという点においても、昨年度を上回る成果であった。結果として、当該科目の最終評価は、平均83.1±6.20(76.8±5.23)点、最高91(82)点、最低75(73)点で、昨年度より6ポイント以上高かった。評価の内訳は秀1名、優4名、良2名で、7名全員					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は、7名中5名が「必修科目である」(71.4%)であった。到達度自己評価は、「自分なりの目標を達成した」(3.9/4.0)は昨年と変わらず、全体的には、学部、学科のそれと同等またはやや低かった。項目(2)～(10)のうち「職業選択の参考になった」(4.4/4.0)が最も高かった。「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」(4.3/4.0),「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.2/4.0),「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.1/4.0),「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(4.1/4.0),「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.1/4.0)及び「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.1/4.0)の6項目についても、平均値が中央値を上回っていたことから、「看護管理」という観点での学習として、学生は興味・関心をもって積極的・主体的に学べており、本授業で学生が達成すべき目標は、全体としても、思考判断(DP2), 意欲関心(DP3)及び態度 (DP4) においても、「概ね達成できた」と判断する。担当学生7名中6名が「調べ学習」に図書館、学術データベース、インターネット等を積極的に利用し、続く「看護総合実習」への準備を進めていた点。結果として、学生7名の最終評価は、$81.6 \pm 4.20(76.8 \pm 5.23)$点, 最高87(82)点, 最低76(73)点で、昨年度を5ポイント程度上回っており、学びの深さにつながったという点も、内容的に標準レベルに相当する妥当なものであったと判断した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	4年前期、一部学生に各論実習が残っている関係で、授業は変則的なスケジュールを組み、概ね7月末の完成を目標に「看護総合実習」に繋ぐ学習準備を行っている。途中、基本看護技術の振り返りと知識・技術の定着化を図る目的で、前期は1年生「看護技術論」と2年生「診療関連技術論」、工期は1年生「生活援助技術論演習」と「フィジカルアセスメント技術論演習」の各授業にリンクさせながら、11月上旬迄の時期を限って、1, 2年生のSA (Student Assistant) として、基本看護技術の指導を依頼している。特に1年生にとっては、身近な4年生が先生役として直接指導に当たることで、疑問や質問が投げかけやすく、何より「同じ苦労」を味わった先輩との関わりの中で、看護技術習得への意欲の高まり、演習への積極的参加など、学ぶ姿勢の変化へと繋がっている。一方、4年生にとっても、他者に「教える」という体験を通して、最終学年であることの自覚や自分自身の知識・技術の振り返り、また、より深い理解や新たな知識の獲得の機会となっていることから、看護師国家試験対策としても有効と考えている。 初学者100名に基本看護技術を確実に習得させるのは容易なことではないが、4年生の力を効果的に取り入れることで、1年生、4年生の双方に、関心意欲(DP3), 技能表現(DP5)の点での相乗効果が得られたと考える。何より、1年生へ刺激は大きく、4年生の先輩の姿に、自分自身のこれから、4年後の自らが目指すべき姿を具体的に思い描けたようである。主体的学修者としての4年生の行動変容にも繋がったと感じている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	到達度自己評価において、学生は学生達成すべき目標を「自分なりに達成した」(3.9/4.0)と評価していた。教員も、ここまでの振りかえりをもとに、全体を通して標準レベル相当の到達度であったと判断し、「やや達成された」と評価した。 次年度に向けては次の5点を課題として、具体的にその方策を検討・実践していきたい。 ①自らの意思とは異なるゼミ選択を余儀なくされた学生について、内発的動機づけとやる気の引き出し ②「調べ学習」を主体的かつ効果的に行う方法の検討と知識定着化への支援 ③グループ学習活動に興味関心をもって取り組めるように、互いに協力・連携し合えるチームづくり ④学習活動を通して得られた学びの深化、物事を「面白い」と感じて行動に繋げることのできる主体的学習者としての態度の整え ⑤最終学年生としての自覚の促し、社会人基礎力の強化

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	毎年、本科目については学生の選択により基本的に小児看護およびその関連領域に将来就職を希望する学生が受講するが、講師以上の看護師資格を有する教員全員で担当するため、均等な配分を配慮して毎回第1希望でない学生も含まれるのが現状である。今回7名を担当したが全員受講動機は必須科目だからと言うことで関心のある内容であると答えた学生はいなかった。受講者が決まった後早い時期に個人面談をして学生の受講理由や将来計画等も確認し、演習・実習が卒後のキャリア支援に繋がるよう科目への取り組み方をともに考え、小児看護領域にも興味関心が持て自主的に取り組めるよう工夫した。また、3年次の「看護研究の基礎」を含め、レポートの書き方は学んできているはずだが十分習得してるレベルではない学生も多いため、卒後の研究的態度にも繋げられるように4月に図書館の方からの文献検索の講義を取り入れている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	7名の最終成績は平均85.4点であった。総合実習が主にNICU・GCUあるいは小児救急センターのどちらかでの実習になるため、演習内容もそれぞれの実習内容を効果的に実践できるよう考慮した内容で自主的に計画し実践していた。同時に実習での個々のテーマを決め文献検討を主としたレポート作成を行った。到達度自己評価では、各々4.1から4.6と概ね知識や技術等を得ることができていると評価している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価によると「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野について,学びを深めたいと意欲を持つことができた」4.6であったことから、内容的妥当性はあったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎年、5、6月に残っている領域別実習を踏まえて演習計画を立てている。卒論がない学生にとって、自分自身の関心領域に課題を見つけそのことを文献検討を通して考えまとめる作業を演習を通して実践できるよう、4月のうちに図書館の方の協力を得て文献検索の講義をしていただき、文献の読み方を皆で検討できるようにした。しかし、この後の個々の進め方には、就職試験、インターンシップや臨地実習施設との事前打ち合わせなどが入り込んでくるため、個人差が出てくるのが現状である。理想的なレベルには達していない学生もあるが、研究的態度、文献検索のやり方、文献の読み方、活用の仕方が身についていけば、卒後の実践につながるものと考え。また、今年度は前期に3年生の技術演習に参加して学生にアドバイスをしたり、夏休み期間にはオープンキャンパスにおいて、小児看護学の模擬授業に参加し、バイタルサイン測定や沐浴指導などを看護に興味のある高校生にわかりやすく説明、指導する機会を持てたため、学生からも自分自身の技術確認や自信につながったとの評価があり、いろいろな教育・学習機会を活用して学生のモチベーションにつなげていることが今後も有用と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護総合実習に向けた事前準備として演習を組んでいるが、小児で与えられた9日間で3施設の実習準備は、やはり学生にとっては負担となっている。反面、毎年、今までこのような施設があったことを知らなかったし、子育てを支援する上で貴重な経験であったと、このままの実習を継続して欲しいとの希望もあり、個々の実習施設での学びは貴重なものであるといえる。限られた時間での実習であるため引き続き実習内容を効果的に行うための事前の演習のあり方についてさらに検討をしていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が85.7%、次に「資格取得に必要である」が14.3%となっている。「関心のある内容である」は28.6%であった。第1希望の領域ではなかったかもしれないが、それなりに関心度は高く、準備性を持って受講していると思われる。 ②看護研究演習を選択しない学生がほとんどなので、本科目は4年間の集大成の役割をする科目となる。研究演習の代わりとなるようなものを仕上げることを目標とし、前半はグループで進め、後半は個別指導中心の丁寧な授業を進めた。 ③内容の充実を図る目的で学生のテーマを大切にしながらフィードバックを行い効果的な指導ができるように心がけた。 ④卒業前最後の年度になるため社会人としての基礎知識やマナー等にも留意して演習を進めた。 ⑤本科目と各論実習、就職活動、看護師国家試験の準備が重なり、学生は負担が大きいがすべてがスムーズに進むように、スケジュールを提示し、微調整をしながら進めた。 ⑥授業時間だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、意欲を高めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価の平均は、3.91で肯定的な回答であった。図書館、データベース、インターネット等を授業の課題のために全員が利用している。学習量においては十分な時間をかけているのか不明なところもあるが、文献クリティークの取り組み状況や、ディスカッションの内容、およびレポートの内容は、学習を反映したものとなっていた。演習が進む経過から、テーマに対する意欲、関心の高まりが感じられ、短い期間の中においては全体を通して目標は達成されたと考える。論考が十分だといいい難い学生もいるが全体的には「達成された」の評価となった。ゼミ生全員が最後まで努力し、レポートの完成、発表資料作成、パワーポイントを使用しての発表、活発なディスカッションができており、学生の意見として、「大変だったが、少しずつ研究を進めていくのが楽しかった。スライドを使って発表をしたことがなかったのでよい経験ができてよかった」とあり、研究や発表を頑張ったようであった。国家試験対策や就活との兼ね合いで学習時間がとりにくいところもあるが、できるだけ思考の深まりができるように指導方法を工夫したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、DP項目において教育目標が達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は看護学科4年間における学習成果の集大成として看護実践の統合科目としての位置づけである。学生の自己評価、学習に取り組む姿勢、成績が高かったことから、CPおよびカリキュラムマップ上の問題はないと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートでの学生の学習量は、十分確保されていたと考える。図書館の利用については、「授業を通して図書・雑誌を利用した」「CiNiiなど学術データベースを検索し利用した」の割合は100%となっている。学生は、授業中のディスカッションや個別指導された内容などについて次の授業までに調べて考察することができていた。また、授業時間以外に必要時はメールで指導するなど、学生のモチベーションを下げることなく、学習を進めることができた。結果、学生の主体的・自発的な学習態度は引き出すことができたと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	4年次開講の科目であり、各論実習、就職活動、看護師国家試験の学習と同時並行で行わなければならないため、学生にとってテーマに取り組む時間の確保が難しいことが予想された。これを補うために、スケジュールを提示し、学生それぞれの進行に合わせて微調整をしながら個別指導を進めた。このことは学生の負担軽減になるとともに、テーマについて深く思考できることにつながり、学生の自己評価を見ても効果的であったと考えられる。本科目の履修は学生にとって負担感があると思われるが、4年間の集大成として学びの獲得は大きいので、意欲的に取り組めるように工夫していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は「看護実践の統合」の科目であり、4年生の必修科目として位置づけられている。学生はこれまでの既習の知識や技術の統合を図りながら、自己の課題の明確化と課題達成のための方法を検討し、実習計画を立案する。また、総合実習終了後にはその成果を論文としてまとめ、看護に対する考察を深める。この間グループメンバーとディスカッションし、メンバー間で共有し合うことで、看護観や人間観、死生観の深まりを期待する。最終的に要約としてまとめ、自己の課題達成状況を明らかにする。これらの一連の学修から、看護職としての専門性や実践者としての在り方についても広く主体的な修得を目指す。学生個々の課題や背景、そして進捗状況も違うことから、個別的関わりを持ち、方向づけと時間的配慮を行った。そして、計画立案、実践を言葉に置き換え、概念化し、まとめあげるという過程において、学生自身の達成感が持てるように関わった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	グループ6名の学生の到達状況は、平均点89.3点であった。全員80点台以上で90点台は4人で到達度においては高く、主体的な学びが出来たと見える。到達度自己評価では平均4.16で高い評価を得ている。「専門分野において的確に判断する力を得る」は唯一3.8であったが的確に判断することは今後の課題と言える。図書館の図書の利用は1名が行っていないが、情報検索は全員が行い主体的な学びを実践してる。自己の課題解決に向けた取り組みや、先行文献検索を実践に活用することについては理解が深まり出来始めている。また、自ら探求する姿勢や根拠をもとに立証していく過程、また現象を要約し、概念化していく段階を経験することにより、学びを深めたいという意欲も深まったと言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上に位置づけ 看護総合演習は、看護総合実習の事前事後学習として位置づけられている。学生の希望により領域が選択され、自己の課題はこれまでの学修状況にも影響を受ける。自己の課題の明確化から始まる演習は学生の個々の重要な学びのプロセスと考えている。一定の評価を得たことから内容的妥当性に問題ないとする。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は既習の学修を統合し、看護実践能力を高め、今後も専門職として主体的に看護を探究する動き付けとなる科目である。成績評価、学習態度、等 概ね良好であったことからCPカリキュラム上から内容の妥当性には問題はないとする。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性については問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この演習は自己の課題を明確化することから始まるため、授業の進め方は学生個々の進捗状況を確認し、グループメンバーの時間共有と情報交換、また個別的課題への問題解決に向けた助言など、学生の状況を把握しながら進めた。学生の個人差はあるものの、個人やグループ面接、グループ討議を通じ、その都度理解を得ながら個別対応により進めるた。文献検索等は時間もかかり、自身の課題と内容がマッチしていない状況も見受けられた。また、課題以外に取り組むことはできなかったが、授業を受けるための準備を行い演習に臨んでいる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「看護実践の統合」の科目であり、4年生の必須科目である。これまでの集大成ともいえる科目である。グループ全員が、看護職を目指しており、これまでの実習経験から個性のある看護をテーマとして掲げ、そして対象と向き合い、助言を受けながら各自の課題に取り組むことができた。現象を概念化し、論文としてまとめるプロセスにおいては学生の取り組みにばらつきがみられた。しかし、状況を確認し、個別に対応することで、ほぼ達成できた。一連の学修から、看護職としての専門性や実践者としてのステップが踏めるように、計画性を持ち、課題に深く向き合い授業運営を行いたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合実習の事前、事後の演習として位置づけられた演習科目である。前期に基本的知識の確認及び抄読会を実施し、実習テーマの設定、実習計画書の作成を行う。産業看護領域における企業及び健診センターの保健師活動について実践力を修得する。演習では、企業特性を理解するために、工場見学などを行い、実習前に施設特性の理解を深める工夫を行った。また、実習指導者と連絡を取り合い、学生が実践可能な保健指導や企業診断などについて施設側との調整に配慮した。また、学生がテーマに沿って実習計画を立案できよう、施設ごとに別途ゼミを開講して対応した。受講動機では、「必修科目である」88.8%、「資格取得」22.2%であったが、「関心のある内容である」はなかった。学生が本科目への関心を高め、看護総合実習の学修準備性を高めることができるよう、学生が保健師実習を通して学んだ内容を想起し、本科目とのつながりを意識して、看護総合実習テーマを設定できるよう配慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終評価となるレポート（平均値85点）では、文献を活用して看護総合実習で計画した看護技術に関する文献を引用して考察を行い、各自レポート作成を行うことができた。また、演習への参加態度も良好であった。以上より、全項目で「達成した」と考えられる。 一方、学生の達成度自己評価では、全項目ともに前年度より低下した。特に前年度最も高かった「事象を理解する視点や考え方を得ることができた。」では、（平均値3.7 前年度4.6）であった。殆どの学生が「図書館利用やデータベース及びインターネットを活用し」ていた。学習量では1名を除いて「1回30分以上の準備」を7回以上行っていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機では「必修科目である」こと、「受講動機」「学習到達度の自己評価」から、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみて内容的妥当性はあると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では、前年度比較して中央値には変化はないが、平均値が全項目で低下した。特に、「説明は理解しやすいものであった」では平均値3.4とかなり低い。個々の達成状況に応じて、質問を受けて丁寧な指導を心掛けることが課題である。自由記載では、「調べ学習」や「資料を自作」といった課題以外の学修を行っていた。本科目と連動する「看護総合実習」では施設によって到達度評価に幅があったため、学生個々の準備状況に応じた進め方が求められる。「学修のための情報利用」「図書館、インターネットの利用」は100%であったことなどから、今後は学生の自主的な取り組みの内容をフィードバックしていくよう配慮したいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度、授業の質評価及び学習量の評価は、全体的に前年度より低下していた。 本科目の授業と合わせて国家試験対策のための個別指導等を行っている。個々の自主性を尊重した授業及び個別指導を心掛ける。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は4年生前期・後期、必修科目である。7名の学生を担当した（うち1名は9月卒業生）。受講動機は、「必修科目である」100%であった。ほとんどの学生は急性期看護を第一希望していたが、受講動機は必修科目と回答が多かった。 ②看護総合演習は、看護総合実習の準備および事後の発表を行う科目である。今年度の希望部署は、消化器外科2名、呼吸器外科1名、乳腺科1名、手術室1名、救急外来1名、眼科1名（9月卒業生）であった。計画書に必要な論文検索および論文抄読、実習目的にそった事前課題の準備および成果発表、実習に必要な基本的な技術の習得（清潔の援助技術、観察技術、心電図、輸液演習など）、手術直後の観察演習の模擬患者役を通して患者体験および観察視点の復習を行い、実習に向けての知識および技術の習得を行った。 ③看護総合実習計画書作成指導を行い、学生が主体になり、実習の目的を達成するための支援を行い、目的に応じた計画を立案できるようにした。 ④看護総合実習後に実習をととして、ケースレポートの作成を行うために、基本的な論文作成の説明および記載方法を指導した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は、平均値89.0（±2.3）だった。全員が理想的なレベルに達していた。その理由としては、実習前の事前課題は、実習中に使用することができる内容であったこと、実習をととしてケースレポート作成に必要な情報を十分得ることができていたこと、その情報をもとに目的にそった考察を行い、自己の看護観を述べることでできていたと評価することができたためである。さらにパワーポイントを作成し発表・質疑応答を行ったからである。学習に際して、図書館の利用率も高くみられた。 ②DP観点別の成績は、いずれも高く、知識理解51.8/60点（得点率86.4%）、関心意欲18.9/20点（得点率94.6%）、18.9/20点（得点率94.6%）と、全員が理想的なレベル（80点以上）に到達した。 ③学生の到達度の平均値は4.4であった。 ④授業の質評価の平均値は4.6で、「口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」4.8で、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られた」4.7であった。 ⑤図書館の図書・雑誌利用、学術データベース利用およびインターネットの利用は100%であった。学習量の評価では、1回30分程度以上の準備・復習を全ての学生がしており、6回以上の学生は100%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「看護実践の統合」に位置づけられており、学生は既習の講義・演習・実習をとおして、急性期看護について深めたいと考えて受講しており、自分の目的を達成するために実習計画書を作成することができていた。学生の到達度自己評価をみると、4.4であった。学生は実習に向けての目的のために事前学習および技術演習に取り組むことができていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から、計画立案は目的を明確にすることができており、目標にそった実習をとおして得られた情報をもとにケースレポートを研究論文の書き方で記載することができていた。さらにパワーポイントを用いて発表・質疑応答を行うことができていた。また、自己の看護観を見いだすことができていたことを踏まえて、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、平均4.6点であった。 演習中は発表を取り入れるなど、学生の成果を共有するように努めた。消化器外科、呼吸器外科、乳腺科、手術室、救急外来での実習を行ったが、異なる部署における看護についての知識の共有に繋がったと考える。 今後も、知識のみではなく技術を取り入れ、学生が主体的に学習することができるようにしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「看護実践の統合」に位置づけられており、学生は既習の講義・演習・実習をとおして、急性期看護について深めることを希望して受講している。既習の知識・技術を活かして、各自で計画書を作成して実習を行い、さらに実習の成果をレポートとして論文形式で作成することができており、概ね達成できたと考える。 しかし、今後は急性期看護を第一希望としていない学生も含まれることが考えられるため、学生の希望理由を把握して、学生が急性期看護を深めることができるように指導を行っていきたい。 本科目は看護総合実習の準備および実習後のレポート作成指導に重点をおき、急性期看護について深めるための支援を行っていただくだけではなく、この時期は就職試験や国家試験へ向けての時期でもある。そのため科目履修の支援だけではなく、学生の就職活動や国家試験への生活に根差した指導を行っていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
遺伝看護学	4	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①外部講師2名とのオムニバス講義であったため、外部講師による集中講義の事前に、基礎知識を整理する時間を設けた ②最終学年での秋開催の講義であったため、参加意欲、参加のし易さを促すために、集中講義とした ③臨床経験の豊富な外部講師にきていただいた ④倫理的側面の大きい分野であるので、知識学習のみならず、今後の職業選択や職業倫理に想いを馳せる思考の時間を設けた
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、の間に「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」とした学生は12/12人と高かった。事象を理解する視点や考え方を得ることができた、また自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた、とした学生も同様に12/12人と多く、自覚的評価は高かった。職業選択の参考にもなったようであった。 全講義終了後にテーマを与えた上でレポートを提出させ、それを評価対象としたところ、外部講師の講義から知識や倫理的な課題について教授されたことについて各人理解し、検討することができていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	母性や助産への進路を検討している学生も多く、また国試対策として知識の整理を希望する学生もいたが、課題レポートのみを課し、知識などについて評価しなかったこと、また学生自身による自由記載はなく、学習到達度の自己評価について捉えられなかった。授業評価アンケートの自由記載欄には「人としての倫理的な部分の学び」の意義に言及している学生もあり、本講義の重要なメッセージがあるていど伝わったことが伺えた。態度については、講義形式をより相互的なものにすることで伝授できるところもあると考えられた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	外部講師によるオムニバス講義であったため、一部講義内容が重複することがあり、今後調整の方法を検討する必要があると考えられた。 外部講師との連携を強化する必要があると考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	我が国においても遺伝看護の第一線で活躍されている講師をお迎えしての講義であり、質の高い内容であったこと、また学生の意欲も高かったことから、学生たちの学びは大きかったようであった。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
救急・クリティカルケア看護学演習	4	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年生前期に既習した「救急・クリティカルケア看護学」の知識を基盤に、特に人工呼吸器装着する患者の看護について、知識だけではなく、実体験を通して人工呼吸器を装着する患者の苦痛や看護の根拠について学ぶ機会とし、講義・演習を振り返り、救急・クリティカルケアにおける看護師の役割について各自レポート作成し発表を行い、学びの共有を行った。 ②救急・クリティカルな状態・状況における患者及び家族に対する倫理的課題や調整について、事例を提示し、グループワークを通して患者・家族・看護師の葛藤について考え、看護師としての行動について考える機会とした。 ③学生の受講動機では、「関心のある内容である」25%、「教員に勧められた」58.3%、がほぼ大半の動機になっていた。昨年は、自身の希望とする受講者が多く、44.4%であったが、今回は、「関心のある内容である」とする学生は少なくなっていた。 ④外部講師の集中ケア認定看護師による演習を行った。実際の人工呼吸器を用いて、人工呼吸器装着中の患者体験と根拠を押さえながらの看護を実践をすることで、知見を深めることができた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の履修者は12名であった。最終的な成績の平均値は、88点（SD6.18）点であり、A判定（90+）7名、B判定（80-89）5名であった。全員が理想的レベル（80点以上）に到達できた。昨年は、4割の学生しか標準的なレベルに到達できなかったが、今回は、全員が標準的なレベルに到達することができた。 DP別では、「思考判断について」は84%、「意欲関心について」は88.5%、「態度について」は95%であった。全体的に講義に対して、意欲関心はあり、真面目に取り組む姿勢がみられ、概ね目標はほぼ達成された。 学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は3.8-4.4に推移しており、全ての項目において、全ての学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。 講義時間内に、集中して講義課題に取り組める授業構成としており、学生は講義時間内に集中して学ぶことができていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護実践の充実」に位置付けられ、内容的は妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では、「態度」95%、「思考判断」84%「意欲関心」88.5%であった。クリティカルな状態にある患者および家族の倫理的な問題は、救急・クリティカルケア看護において重要な課題である。事例および実際の人工呼吸器の体験を通して、「関心・意欲」は88.5%と高値であった。平均点の88点から考えても、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、殆どの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」に回答しており、平均値も4.3～4.4であった。個人ワークおよび発表の場を設けたことで、個人の学びを共有する機会と学生の質問に対応する機会となった。 図書館の利用において、図書館の利用をしていない学生が2名、インターネットによる文献検索をしていない学生が6名、インターネットを使用していない学生が3名という結果であった。昨年より減少したものの、4年生であれば、最新の情報から学び、その情報をまとめる力も必要となる。今後、文献検索方法および文献検索の必要性を説明し、課題への内容の広がりや理解の深まりを支援していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「専門教育科目」の「看護実践の充実」に位置付けられ、4年次の選択科目である。 行動目標については、概ね達成できたと考ええる。 今後も、演習に興味関心を高めることができるような授業展開の工夫を図っていく。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	雪松 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
NPO論	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今回、受講動機の6割が資格取得に必要と感じている一方、4割が教員から勧められたと回答している。4割の学生が自身で必要性を感じていないのは、受講が4年生の後期で、国家試験対策に力を入れている時期であること、NPOとの関わりがなく生活してきたからであり、一定数いることはしかたがないことと感じています。しかし社会に出ると職務上、NPOとの関わりが出てくることから、授業内でNPOと医療、住民の生活との関係性を学び、日常生活の中で新たな視点を持ち、その視野を広げることを目標としました。 結論としては、授業を受けることでこの授業の必要性を感じられたとの声もあり、学習準備性と授業計画は学生に見合ったものであったと考えます。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は全員が80点を上回った。毎回の授業出席、レポート提出はもちろん、その内容も授業の回数を重ねるごとに考えが深くなっていました。授業後、自ら関心のある内容を調べ、講師に質問する学生もあり、積極性が見られました。授業中の発言が多い学生ほど、様々な視点や自身の経験から考えており、それを学生同士共有することができたのも、全体の学びの深まり、成績に寄与したと考えます。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など	学習到達度の自己評価欄について。学生の「かなりそう思う」という評価は3分の1程度にとどまっていました。設問で「自分が学ぼうとしている専門分野において・・・」という項目が多く、学生にとって、集中講義という短期間で、視野を広げることや自身の専門性と結びつけることはそんなに容易なことではなかったと思います。 講義の時期、集中講義という形から、設問の成果が見えにくい状況と考えます。 内容の妥当性については、問題ないと考えますが、技術の習得という面が少ない授業内容のため、講師による学生への意識づけが重要になると改めて感じました。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価について、国家試験前ということで事前学習や課題を減らした授業設計にしており、それが数字として表れています。そのため、大幅な改善はなく、授業内で、より職業との関係性や、医療とは弱者を救うということだけではないという点を伝えていけるよう努めます。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	おおむね授業の目標を達成できたと感じていますが、4日間の集中講義という形で、どれだけ学生と関係を作るかが今後も課題になると考えます。 学生の置かれている状況を理解し、その上で授業の必要性を現場の事例や学生の身近な施策、特に今回は女性の身体や出産についての事例なども交えて伝えていきます。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学特論	4	後期	選択	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	来春から医療現場で働くことになる看護学科4年生を対象に、医療現場で重要性の高い疾病学の知識や医療技術を改めて解説しました。応用力をつけることに重点をおきました。また、看護国家試験に向けた知識の整理も出来るように心がけました。自著の教科書「解剖生理と疾病の特性（改訂2版）」を使用して、ポイントを絞って講義しました。授業期間が終了後も、4年生からの個別の質問には最優先で対応しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「関心のある内容である」が62%と最も多く、看護師となって臨床現場で働く自覚の表れと思います。また、「資格取得に必要である」も15%あり、国家試験に向けた強い意識を感じます。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	3回行った試験の成績はばらつきはありましたが、知識理解については全員が標準レベルには到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目は平均値4.3と高い値です。「コミュニケーションや表現力を高めることができた」以外の全項目で平均値4.0以上です。看護師として臨床現場で働くうえの、基礎的知識や鼓動規範などを改めて確認して貰えたものと嬉しく思っています。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護実践の充実」に属します。看護学科の学生は1年次に「看護形態機能学」「感染と免疫」などで基礎医学を学び、「疫学」「保健統計学」などで社会医学を学びました。そして、1年次の「疾病学総論」に続いて、2年次に「疾病学各論Ⅰ&Ⅱ」「看護のための臨床検査」「薬理学」などで疾病の病態・症状・診断・治療などの臨床医学を学びました。それらの知識をもとに、様々な看護科目の授業・演習・実習で看護学を学ぶことができました。病院実習では実際の患者の看護を経験してきました。それらを踏まえうえて、4年次に改めて医療現場で応用できる疾病の知識や医療技術を解説したのが本科目です。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、「説明は理解しやすかった」の項目は平均値4.6と高い値でした。ただ、「学生が参加する機会が創られていた」は平均点4.1とやや低い値でした。講義内容の性格上、座学中心になるのはやむおえない面もありますが、今後の課題と考えます。 自由記載でも「分かりやすかった」とする評価が多かったです。また、国家試験終了後のアンケートでも、この授業で使用した教科書を半数以上の4年生が「後輩に強く勧める」と答えています。 また、学習量をみると、約半分の受講生が30分程度の予習復習を4回以上行っていました。受講生が積極的に取り組んだものと嬉しく思っています。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講生の授業に対する意欲、試験の成績、到達度自己評価などより、全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。 看護師国家試験の結果も良好でしたが、今後、本科目で学んだ内容を忘れずに看護師として活躍されることを祈っています。 学生参加などを取り入れたいのですが、講義数が8コマであり、内容も膨大であるため、例年の課題ではあるのですが、なかなか困難です。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	沖 勉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康政策論	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保健師コースには必須の科目である。本人の希望もあり、選考された18人である。自発性を持った学生が多く、保健師の卵という感がある。 ① 保健所等実習前に保健福祉行政についての概論を講義し、実習で学習してきた保健福祉計画について講義・ワーキンググループ学習を実施した。 ② これまで学んだことを総合的に活用できる科目であり、社会の動き特に健康に関する幅広い視野・興味を持ってもらうことが何より大切だと考えている。普段の生活の中で興味を感じたことを深くめていく力を持ってもらいたいと考えていた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	小テストを3回したが、前回の授業内容はほぼ理解していた。 3人一組のグループワークでは、第二次北九州市健康づくり推進プランについて、重要な課題を5つ検討し、最も優先順位の高い課題を解決する事業をグループワークしてもらった。また、北九州市が作成した健康づくりのアプリ「あるくっちゃKitaQ」についても評価してもらった。 課題抽出力・事業企画力。プレゼン能力ともほぼ良好であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保健師コースには、必須の科目である。 ①保健所等実習をする際の基礎知識を学ぶこと ②保健福祉計画の策定の方法や健康に関する課題解決方法について学ぶこと 到達度自己評価の項目の（８）コミュニケーションや表現力を高める点では多少評価が低いが、その他の項目は後期学科別集計表「看護科」の平均値とほぼ同じであった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	最低限必要な資料は印刷して提示し、もちろん教科書も使った。これからも必要な資料は印刷して提示したい。 次年度も同じようなスタイルで授業は進めたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的にはほぼ達成されたと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護管理演習	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年生後期の選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。受講動機では、「必修科目である」38.9%、「資格取得に必要である」77.8%である。 本科目は、保健師課程実習前に2コマ開講し、終了後開講する計画で実施している。実習での事象を想起しながら、公衆衛生看護管理としての学習を計画している。授業形態はアクティブ・ラーニングを取り入れた授業となっている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、90.6(88.0)点であり、再試対象者はいなかった。100.0(93.8%)が理想的レベルに達した。 目標別にみると、思考判断に関しては91.7(80.4)%、意欲関心に関しては91.8(99.4)%、態度に関しては98.9(100)%、技能表現に関しては99.4(99.1)%であった。学習成果としては、目標は達成できたと考える。 学生の成績評価においては、科目の目的を達成できたと評価できる。学生の到達度自己評価においては、全項目においての評価平均が3.9～4.2点であり、概ね到達できたと判断できる。今後の本科目の意義を含め学習方法の検討をさらに進めていく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が4年生後期であるため、卒業後の新人保健師育成から管理的視点にいたるまでの授業内容を計画している。 最終的な成績評価及び学生の到達度自己評価から概ね目的は達成できていると評価できる。そのため、内容的には妥当であるとする。学生の学習意欲を高める授業展開の検討は、今後必要である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業方法の展開において課題の提供について、前年度の結果を踏まえ、学生の実習での成果状況を踏まえ、個々の学生にあわせ、題材を提供する形で講義を展開した。学生も実習後のため、地域の課題を想起しやすく、成績の結果にもその状況が反映していると考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、全員の学生がDPの目標を理想的レベルで達成できている。 本年度は、学生の学習態度が積極的で、地域の事象に対する公衆衛生看護管理としての捉え方を学びたいという姿勢がみられた。18名の受講者であるため、一人一人が学習状況も把握しやすいこともあるため、学生と教員の双方向のコミュニケーションを生かした授業展開を今後も取り組んでいきたいと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	○昨年度は秀50%、優25.0%、良9.1%、可9.1%、不可0.0%であった。 ○本年度は秀18.2%、優36.4%、良36.4%、可0.0%、不可9.1%、平均点79.2点であった。SD=8.82 ○昨年度に比べるとやや低下しているが、本年度は資料の読み取りなど授業に集中しないと解答できない問題が増加しており、十分に満足できる結果といえる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○昨年度に引き続き特に問題もなく、非常に満足できる結果であった。看護学科のみの授業であれば、授業内容を深化させより多面的にテーマを理解させる方向に進めたいが、他学科とのバランスの関係もあるため、次年度も本年度同様の枠組みで授業を進めたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○授業における事例展開や理論モデルの紹介など発展的内容を組み込んだ結果、やや成績が低下したが、集団全体に適切な成績分布をもたらすという意味では効果的だったと考える。引き続き、全員が高い意欲と態度で受講できるよう努めたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。 ②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。 ③殊に新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義を試みた。 ④学生の教職への学修意欲を喚起するために試験方法を完全に知識重視の穴埋め形式とした。範囲は『学習指導要領』の「総則」のみとした。それゆえに集中的学修を期待した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の成績は50.81で、11名中3名のみが合格であったが、再試験ではポイントを85.75まで伸ばし（評価は60）全員合格することができた。採用試験に対する感触は得られたと思う。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の平均値は3.0～3.6で、殊に「説明は理解しやすいものであった」の評価が低い。講義をもっとていねいに紙具いていかなければならないと思う。学習指導要領の説明2時間をかけ、毎時間に細かい指導をすべきかもしれない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	到達度自己評価は3.0がひとつあるものの、3.3～3.6であり、まずまずがんばっているようだ。再試験での頑張りはたいしたものなので、当初からそれを意識した講義を考えたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	大黒 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育相談（カウンセリングを含む。）	2	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたり、まずは学校カウンセリング論に関する基礎的な理論を学習させること、そして実際の現場では講義で学んだ理論をどのように活用できるかと言う点を重視して講義を行った。 学生は現場で必要とされる人材とはどのような人格及び、行動、態度で臨まなければならないのか、考える力を養えるように事例問題を多く提示した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館・インターネット利用」、「自	授業後のアンケート結果を見ると、授業内容について、またカウンセリングについて興味を示している学生が多くいた。ただ、講義の復習や予習など自己勉学に励む時間が少ないようにも感じた。事例問題については講義中に繰り返し示したように、問題を解決する際に「私の意見」を述べるのではなく、理論に沿った回答を述べるように伝えていたので、カウンセリング理論に則した回答がほとんどだった。したがって、この講義に対する思考や態度はある一定レベルは達成されたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの自由記述の欄に、「学校現場で実際にどのようなことが起こっているのか、それを知ることが出来てよかった。」、と書いてあったように、本科目である内容的妥当性は評価できるものだと考えた。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	基本的にパワーポイントを用いて講義を行うが、SNSや動画を用いて、より視覚や聴覚に訴えた講義が必要になるだろう。90分の講義時間の活用法が重要になってくる。座学は30分程度、30分がソーシャルメディアの活用、残り30分を思考判断が成長するような課題を提供する必要があると感じた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学校現場はその年々で課題が変化する。2020年度はコロナ禍において、オンライン授業による弊害（例えば子ども同士のコミュニケーションレスなど）が起きているので、そのような学生に対してどのように対処しなければならないのか、最新の研究を踏まえて講義する必要があるだろう

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3～4	三期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、教職における実習前後の科目であり、教職の免許状取得のためには必修科目である。学生も「資格取得に必要である」で全員が認識し受講している。 教職の実習は初めて経験することになる。そのため、授業内容には、実習に必要となる実践的な演習を多く取り入れている。また、外部講師についても、現場経験のある教育委員会の人権担当者や現職の教諭を講師として招き講話をしていただいている。さらに、4年生の意欲が高まるよう、実習発表会に次年度実習を予定3年生の参加を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績は、82.6%（±5.64）の成績であった。 学生の「学習到達度の自己評価」は、4.2～4.7という評価であった。教育目標別には、達成度を80%とした場合、知識理解は、82.3%、思考判断82.1%、関心意欲90.0%、技能表現80.9%で「達成された」と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみての内容的妥当性 本科目は教職の実習前後に位置づけられた必修科目である。カリキュラムマップの位置づけからみての内容的には妥当であるとする。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 成績評価からみると、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「学習量の評価」は、授業の準備に取り組んでいないと自己評価した学生はいなかった。復習に取り組んでいないと評価した学生がいたが、実際、全員が課題レポートを提出している。そのため、実際の取り組みと学生の自己評価の認識とは異なっていることが考えられる。 学生の「情報利用」について、「シラバスの記載を参考にしなかった」「あらかじめ授業の計画を立てなかった」と回答した学生が約2割いた。 学生の「図書館などの利用」について、全員が「図書」や「インターネット」利用し、「学術データベース」は83%が利用していた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、教職における実習前後の科目である。事前及び事後の指導は、学生の「到達度評価」などからみれば概ね達成できたと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（養護教諭）	4	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職実践演習は、養護教諭免許状取得においては必修科目である。学生も「必修科目である」と「資格取得に必要である」と認識し受講している。最初の授業で、全学科対象に授業概要について説明がある。しかし、学科のみで実施する授業もあるため、その後も学生に授業について説明しながら進めた。授業の進行は、全体15回の中で、外部講師を招いたり、外部機関の研究会に参加するなど、実際の学校での取り組みや実践がわかるよう授業内容を工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は88.1（±4.24）点であった。目標別に見ると、思考判断に関しては86.2%、関心意欲89.3%、技能表現に関しては88.2%で、達成レベルを80%とすれば全項目達成していると考えられる。 学生の「到達度自己評価」は、全ての項目の平均値が3.8～4.2であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は教職課程の学びの集大成であり、養護教諭免許状取得に必修の科目である。看護学科学生の場合は、教師と看護師という別の進路に進むため、学生のモチベーションも異なることが予想される。この面について、学生のニーズに応えるよう工夫する必要もある。しかし、カリキュラムマップ上の位置づけやその授業内容としては、妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DPの項目の達成度からみると、DPの全項目、学生は達成しており妥当であると考え。 ③まとめ 以上、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質の評価」の平均値は3.7～4.3点であった。 学生の「学習量の評価」は、準備と復習どちらも課題に取り組み実施していたと考えられる。 学生の「情報利用」については、シラバスは、全員が参考にしていたが、計画を立てた学生は、半分だった。 学生の「図書館などの利用」については、7～8割が利用していた。 このような学生の評価から、授業の進め方については、概ね妥当と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教職課程の学びの集大成といえる本科目は、教師へとつなぐ内容として概ね達成できたと考える。次年度も、学生が教員として力をつけたり、学校での養護教諭の働きがわかるような授業構成としたい。また、他学科の教員と連携し講義を充実させていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「学生の授業評価アンケート」（学科ABの全体81名）を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「単位数確保」が4.9%、「関心」が3.7%、「資格取得」と「GPAをあげる」が2.5%、「友人が履修している」が1.2%であった。ほとんどがキリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明した。第2に、評価基準を明示した。授業の質評価を見ると、<評価基準は明らかであった>の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「32、37、17」で100.0%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「0、0」で0.0%、無回答が「0」であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用し、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや例えば、可能な場合には看護と関係のあるものを用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関し
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績を見ると、平均値は86.4点であった。分布的には、90点以上が57.3%、89～80点が35.4%で、理想的レベル（概ね80点以上）に達した受講者は92.7%であり、79～70点が1.0%、69～60点が1.0%で、標準レベル（概ね60点以上）のそれは2.0%であった。成績で見ると、知識理解は目標に達した。② 学生の<知識><理解>に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順（以下同）に「35、35、16」と「29、42、15」でいずれも100.0%で、それぞれ否定的回答は「少し」「全く」の順（以下同）にいずれも「0、0」で0.0%であった。アンケートが試験前の実施であるが、かなり成績分布と平衡が取れていた。③ 専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する<検討する力><判断する力>に関しては、肯定的回答は「29、37、19」と「29、37、19」で100.0%と98.8%であったのに対し、否定的回答は「0、0」と「1、0」で0.0%と1.2%となった。④ 専門分野でも意欲関心に関する<意欲>では肯定的回答は「29、37、19」で98.8%であり、否定的回答は「1、0」で1.2%であった。⑤ さらに専門分野の技能表現に関する<技術>と<コミュニケーション、表現力>の習得では、肯定的回答はそれぞれ「28、33、23」「23、35、22」で97.7%と93.0%であったのに対し、否定的回答はそれぞれ「2、0」と「6、0」で2.3%と7.0%であった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「30、35、20」で98.8%であったのに対して否定的回答は「1、0」で1.2%であった。⑦ <職業選択の参考>では、肯定的回答は「24、37、23」で97.7%であったのに対し、否定的回答は「2、0」で2.3%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、<知識><理解>では0.0%であった。さらに専門分野の学習においても数値は低い。すなわち、<検討する力><判断する力>ではそれぞれ0.0%と1.2%、<意欲>も1.2%で、<技術>習得でも2.3%であった。しかし、<コミュニケーション、表現力>の習得では7.0%であった。だが<倫理・規範>と<職業選択の参考>に関しても1.2%、2.3%と低かった。②DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための<知識><理解>、及び、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための<倫理・規範>、課題を解決のための論理的思考・判断にかかる<検討する力><判断する力>、及び、社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける<意欲>、並びに、<技術>の習得という専門分野のいずれも、否定的回答は低い。これに対し、適切な関係を形成する<コミュニケーション、表現力>に關しての否定的回答は7.0%であり、10%未満に留まった。③以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野、専門と技能表現の分野で、100乃至90%台であり、授業内容は妥当であると考え。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考え。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①AB両クラスの学生からの担当教員への意見は、知識と理解に関し取組として「分からないところを調べた」「礼拝」「聖書を読んだ」とあったが、教員生活で初めて全員が肯定的な回答をした。いわゆる重要事項を暗記し正しい答を選択するという内容の授業ではなく、「自分の大切さに気付く自己理解」それと同様に「他者の大切さに気付く人間性」を軸に、聖書から「愛」「赦し」「弱さ」「逆説的自由」とは何かを、現代の状況に照らして問題を投げかけ共に考える授業を行った。今後も、復習しつつ前に進む授業と心がけ、学生とともに進む授業を工夫したい。②学習量の評価を見ると、<授業の記録><1回30分以上の予復習>のいずれに関しても「6回」「4、5回」がいずれも各4、3名であり、「2、3回」は9名で、「1回」が予習19名、復習21名であった。しかし「0回」がそれぞれ51名と49名で半数以上であり多かった。進め方に関する授業の質評価を見ると、全項目に1名の無回答があり、<学習の範囲や課題は明らかであった>という項目では、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」（以下同じ）の順に「35、35、15」であり、否定的回答は無かった。<理解しやすい>という項目では、「29、38、17」で、ただ否定的回答は「0、1」であった。<学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答は「32、33、19」で、否定的回答は「1、0」であった。<参加の機会>では依然否定的回答が「3、1」と少なくなく、肯定的回答は「29、31、21」であった。③今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1）記録しない学生への対応として、知識を整理できるようにプリントして配布すること、2）予復習の方法を具体的に指示すること、3）毎授業ですべての学生から回収しコメントして返却する「自己学習記録」
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にすることは今後も必要である。評価基準の明確性につき否定的回答は無かったし、最終的に試験を受けた者が全員単位を取得できた。②総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。しかしこの科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での<的確に判断する力>及び<その学びを深めたいと意欲をもつ>ことの基盤となるものである。つまり、この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。<授業の進め方とその向上について>記載した改善策に取り組み実学としての成果を上げていくことが今後も必要である。③以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にする。授業を進めるに当たっては、板書とプリント配布、パワーポイントを活用し、予復習の方法を具体的に指示すること、学生から回収する「自己学習記録」から授業の理解の共有に役立つ指導を今後も工夫することが考えられる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。 ② 講義を2コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行が可能になった。 ③ 初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をととして思考できるよう課題発見のためのシートなども改良した。また、学生が考え抜く力を身につけるために、毎回の演習の振り返りを行うためのシートを追加した。 ④ 課題レポートのグループテーマを新聞情報から見つけるように指導した。この取り組みにより学生の社会に対する視野の広がりにつながったと考える。 ⑤ 初年次セミナーⅡでは初年次Ⅰとは異なるグループ編成にした。その結果、学生間に大きな評価の差もなく、学生からは「今まで会話しなかったことがなかった学生との交流が図れた」との意見が聞かれた。 ⑥ DPにそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができていた。 ⑦ 今年度は、教育体制を教員10名から5名にした。少人数での協議は、教員間の調整が容易となり、講義内容および成績評価の差が少なく
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①92名が履修を行い、総合評価の平均値は81.2点(昨年度76.9点)だった。96.7%（昨年度86.7%）の学生が標準的レベル（70点以上）に達しており、理想的レベル（80点以上）に達した学生は70.7%（昨年度41.0%）だった。 ②DP観点別の成績は、DP1-1（知識・理解）は、40.7/50点（得点率81.3%）、DP3-1（意欲関心）は、12.5/15点（得点率83.3%）、DP4-1（態度）は、20.7/25点（得点率82.7%）、DP5-1（技能表現）は、7.4/10点（得点率73.5%）だった。 ③学生の到達度自己評価の平均値は、4.1（4.3-3.8）で、「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」「知識を確認、修正したり、新たに得ることができる」4.3で最も高く、次いで「自分なりの目標を達成した」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」4.2であった。また、「職業選択の参考になった」は3.8であった。 ④授業の質評価の平均値は、4.4（4.6-4.2）（昨年度4.1）で、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」4.6と最も高く、次いで、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」4.4で、昨年度と同様の傾向であった。 ⑤学生の学習量評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、79.1%・74.7%で、4～6回以上した学生が、40.7%・40.7%であった。課題以外の学習に取り組んだ学生は、31.9%という結果であった。自由記載から、他の教科に時間が取られる、他の課題が多いという意見が聞					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的とした科目で、初年次セミナーで学んだ既習の知識をもとに、討論、発表を取り入れた構成となっている。1年次で身につけなければならない講義内容を含んでおり科目の位置づけとして内容は妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度、技能表現）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果は良好で、初年次セミナーを基盤とした授業構成は、到達度自己評価の結果、図書館利用の向上から初年次セミナーでの学びの確認と定着に繋がったものと考えられる。さらに発表の経験をとおして、話し方、聞き方の学修および司会進行の役割の学修に繋がったと考える。次年度も今年度の授業内容を基盤に学生の意見など鑑み検討をくわえる。 ②昨年度の自由記述に「本当に必要な教科だったのか。すごく負担だった」という意見が聞かれた。今年度は、オリエンテーション時に4年次生のプレゼン風景をスライドで示しながら、初年次セミナーでの学びが今後の専門科目における発表や実習におけるカンファレンス、さらに卒業後の学会発表などに向けた学びの基盤であることを伝えた。 ③学生の自由記述に「ポートフォリオの評価を全ての教員で統一して欲しい」との意見が聞かれたが、評価指標をもとに学生の自己評価と教員評価で評価を行っている。さらに評価協議を実施し教員間の調整を行っている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的とした科目である。上記に記載した評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などからみて、この科目の目標は達成できたと思われる。今年度実施した授業工夫をもとに、より学生が関心意欲をもって取り組めるよう講義内容を検討する。また、これからの看護の学びの基盤科目であり、学ぶ意義を講義を通し伝えていく。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	いいえ	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）では、練習によって各種スポーツにおける技能を高めさせると同時に、ルールを理解させることによって、学生自身が積極的に試合ができるようにした。また、ダブルスのゲームでは毎回ペアを入れ替えるなど、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。試合後には反省点や次回に向けての改善点（課題）などを実習記録にまとめさせることによって、各種スポーツ技能のさらなる向上を意識させた。 ウォーキングやジョギングについては、自分に合ったペース、友達と会話ができるペースで行わせることによって、無理なく運動が続けられるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79.5（±7.5）点であった。成績分布別にみると、90点以上が8%、89～80点が51%、79～70点が30%、69～60点 が11%であり、すべての学生が標準的レベルに達しており、59%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が52%、「わりにそうだと思う」が32%、「まあまあそうだと思う」が16%であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.4）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が43～52%、「わりにそう だと思う」が29～32%、「まあまあだと思う」が15～26%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.2～4.4）。 「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が48%、「わりにそう と思う」が34%、「まあまあだと思う」が17%、「少しそうでないと思う」が1%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.3）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学・全学共通科目の「女性と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の技術練習およびゲームを行った。「全体を通した」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「知識・理解（DP1）」、「態度（DP4）」、および「技能・表現（DP5）」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が4.2～4.4であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、ラケットスポーツおよびウォーキング・ジョギングを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、ラケットスポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外で日々意識的に歩いたり、トレーニングなどを行っている者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。昨年の講義で、世界史と関連がやや不足していた点は、今年は史料で補った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、試験の結果からみると、上位者と下位者に2極化している。講義後インターネットを利用して学習を進める学生もいる一方で、受講者が多いために集中できなかったなどが授業の感想としてあげられ、理解不足にある歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差への配慮に加え、教室の学習環境の改善も求められる。成績下位者の学生も大半は再試験のレポートでは理解を深めていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、図表を多用した資料を活用した。おおむね内容的妥当性は認められるが、学生の歴史的知識を個別的にふまえた上で講義を進める必要はあった。一部の学生においては現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題と日本の女性の近代化と結びつけた理解は不十分ではあった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、高校教科書の図表なども使用し、独自の資料集を作成した。学生数が多く、双方向的なやり取りが不足した点は課題である。改善策としては、質疑応答の時間を入れ、授業後には史料の確認を図書館やインターネットで行うようはたらきかける。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	女性史は範囲が広いため、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち固定的性別役割分担意識に集中させることができ、知識の理解を深められたと評価できる。日本の歴史を学ぶことが現在の世界の情勢と結びつけられるよう思考力を高めるのが課題である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	最近、富に文字離れが目立ってきているうえ、理系の学生が文学なるものをどの程度周知しているか、私にとっての課題であった。しかしながら思いに反して、保健福祉学部の中では一番反応が活発で、質問も多く、レポートも真摯に受け止めた回答が多かったように記憶している。ただし、なぜ今、文学を学ばなければいけないのか、という問いを皮切りに、「文学がすべての実学」であることの意味を理解したうえで、自身の専門と重ねて考えることに重要な意味があることを学び、古典、歴史、人の心、表現、昔話等々、を分析解釈の講義をおこなった。物事への試行錯誤に偏りがないようにするための講義展開を工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	関心を持って受講していたようである。それぞれの学生にややもすれば、多少の温度差はあったが、大方は到達していたように把握している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目の位置づけから見た内容的妥当性については、80%は活かされていると思われる。文学を通して、生きてゆくことへの諸問題を取り上げているので、学生自身の言葉で自身の考えがしっかり語れるようになれば更なる実力はアップするであろう。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	やむおえない休講があったため、一部の学生は殊の外補講を拒否していたようである。ほとんどの学生は理解していたが、すべての学生に良き流れがいきわたるような講義をしなければと思っている。講義内容としては、さらなる充実と実例を掲げながら、学生の意欲がわくような講義展開をめざしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況の総括的評価としては、今年度は、75%である。来年度はもっとアップするように努力してゆきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」52.5%、「単位数を確保する」29.5%、「関心のある内容である」16.4%であった。教職必修科目であり、かつ保健師の資格取得に養護教諭II種が必要であることから、看護学科の多くの学生が履修したと思われる。2016年度から選挙権の年齢が18歳以上に引き下げられたことから、2017年度より講義計画を変更し、統治機構に関する講義を基本的人権に関する講義より先に行っている。また、憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。なお、欠席率は平均7.42%であった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	後期試験の平均点は72.2点であった。成績は後期試験をベースに、コメントの記述内容について若干加点（最高10%）することで総合評価とした。その結果、再試対象者は1名（試験当日欠席、ほか放棄者1名）、理想的レベル（90点以上）に達した者は5名であった。積極的にコメントを出す学生も多く、関心と学習意欲の高い学生が多かったことが、高い成績を導いたものと思われる。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」、の平均値がともに4.0、「自分なりの目標を達成した」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がともに3.9であった。他の項目の平均値もすべて3.5-3.8の間にある。ほぼすべての項目について、昨年度をやや上回った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。しかし、履修の際にシラバスを参考にした学生が半数以下であることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にするよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値はいずれも4.0であり、昨年と同様の評価であった。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は34名、復習を全くしなかった学生は29名であった。昨年度に引き続きやや減少しているものの、今後は予習・復習の必要性和具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。授業以外の学習として「復習」、「講義中に気になったことをインターネットで調べる」、「（ ）の部分を覚えた」などの記述があったが、授業以外に学習していない理由として「授業で十分だと思った」、「他の教科に時間がかかるから」、「何をして良いか分からなかったため」などの記述が見られた。学生の意見について、「先生の説明はとても分かりやすく、憲法について高校1年生で習った知識を思い出せてさらにプラスで新たな知識が学べてよかったです」、「中学や高校で習った憲法の授業より分かりやすかったです。ありがとうございました」、「生徒の声を判えてくれる授業で、とてもよかったと思います」との、非常に評価の高い感想が見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣がさらに定着する方策を検討したいと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	桐原 隆弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	テキストをもとにした穴埋め式のプリントを作成し、これを事前に配布して予習ができるようにした。ほとんどが授業中に板書した答えを写しているようだったが、多くはないものの予習をしている学生もいたようだ。 哲学・倫理学の高度な内容を、日常の話題と結び付けながらわかりやすく説明することを心掛け、毎回のレスポンスペーパーで、特定の哲学説と人生の場面とのかかわりについて考え・記述させた。これにより、学習意欲・知的好奇心を増すことにつながったと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験はテキスト、プリント、ノート持ち込み可の記述・論述問題であった。語句説明、あらかじめ発表した論述課題で試験を行った。データをとったわけではないが、成績分布は妥当であったと考える。難易度も印象とは異なり、それほど高いものではなかったことが試験結果からもうかがえる。事前に十分準備した優秀な答案も少なくなかった。 一方で、持ち込み可の旨を連絡し、論述試験の課題も事前に伝えていたにもかかわらず、資料等を忘れたり、準備不足で不合格となった学生もいた。授業の説明内容・指示内容はおおむね伝わっていたと考えるが、一部、説明が分かりにくいという意見もあり、改善を心掛けた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は関心を持つ学生が哲学の知識に触れることで教養を得ること、人生についての見方を深めることを目標としている。主眼は、各自が関心を持ち、知識と思考を深めることである。授業では講師が学び理解する範囲での哲学説を、日常のさまざまな場面と関連付けながら説明している。そのことで、専門諸科目を学ぶ際に有効な知見や別の視点を得ることができれば十分に目標が達成されたことになる。 実際、心理や社会福祉、観光文化等の内容と重なる内容も扱っており、レスポンスペーパーでも別の授業で出てきた内容の理解が深まったとのコメントもあった。 以上のようなことから、本科目の内容的妥当性は確保されていると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	プリント記載内容と追加説明（ノート記載内容）とが混乱することがあるようなので、明確に分けて説明したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	おおむね目標は達成された。基本事項についてもおおむね理解されたと考える。 発展的・応用的な内容についても関心を呼び起こし、各自がみずから学習できるよう促したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目であるが、科目名は多様な内容を含んでおり学生からすると具体的に何を学ぶかをイメージしにくい科目である。今回の受講動機をみても「単位数を確保する」を動機とする回答が一番多く、「関心のある内容である」を動機とした回答は少なかった。このことは開講前から予想できたため、授業では毎回の授業内容に関わる様々な「確認チェック」という名のQ&Aに答える作業を行わせて彼らの関心を高めることを試みた。 ②授業によっては専門的な用語が頻出するため、毎回の授業の終りに授業のまとめ問題を行わせ、授業内容を復習させた。 ③授業の内容だけではイメージしにくいため、「差別」と「言語」に関する具体的な映像を見せ、それぞれについての考えをレポート形式で書かせた。 ④冬休み期間中に日本の学校制度と徒弟制度の意義に関する論文を読ませ、その内容に対する賛否と理由を書かせた。レポートとしてではなく本試験の問題に出し学生に答えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は5つの学科に所属する学生が受講していたが最終的な成績の平均値は80点以上であり、再試対象者は数名いたが、ほぼ全員が標準的なレベルに達したと言える。 目標別にみると、知識理解に関しては本試験の対象問題の結果を見る限り75%以上であり、学生の到達度自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の回答が平均3.5以上であった。態度については一部の学生の中にレポート問題の提出が遅れる、またはレポートの書き方が1～2行程度しか書かないといったものがみられた。原因の一つとしてレポートの論述的な書き方に慣れていないことが挙げられる。次年度の授業ではこのことを踏まえ、冒頭でレポートの基本的な書き方をレクチャーする予定である。 学生による授業評価においては、ほとんどの項目で標準以上の評価が得られた。ただテスト、レポート、提出物などの評価基準について明確でないとの回答が一部あった。学生たちには第1講の冒頭で評価基準について伝えていたのだが、十分に浸透していなかったことが上記の評価となったと思われる。次年度は第1講冒頭だけでなく、本試験前にも再度評価基準について学生たちには明確に開示していく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 学科によって異なるが、到達度自己評価の項目では学習意欲に関する達成度がまだ十分に達成されてはいなかった。こちらによる一方的な講義だけでは意欲が削がれるため、毎回の授業の度に学生たちに内容に則したQ&Aやアンケートを実施していたが、まだ改善の余地があると考えられる。その他の領域に関しては一部ばらつきはあるものの数値は高く、内容的には妥当であったとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学科によって異なるが、授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.1であった。受講人数が小人数と聞かされていた当初の予想を上回る多人数だったこと、さまざまな学科の学生が受講しているため、グループワークを行うことが難しかったことが原因として考えられる。次年度以降はグループ討論の機会を増やし学生たちに授業への参加を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は開講前は「少人数が受講する」と聞かされており、シラバスもその人数に合わせたものを作成していたが、結果として50名以上が受講することになり、授業の内容と評価を多人数に合わせて修正しなければならなくなった。第1講の授業の冒頭において授業内容の変更と評価基準について伝えていたが、こちらにも不備があり学生たちに十分に伝わっていなかった。次年度のシラバスにはすでにどのような人数でも可能な授業内容を記載しているが、授業内容と評価の基準については混乱が起こることがないように学生たちに明確に伝えていく予定である。毎回の授業終わりにまとめ問題を実施したことは、平均が80点以上の本試験の結果につながった。この方針は今後も続けていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英会話入門	1	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	For this course we continued to use the textbook "Four Corners 1" (Cambridge), which guides students through practical exercises aimed at improving spoken English skills. Students engaged in listening practice, dialogue drills, information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building for the second half of the textbook.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 6 criteria (class tasks 15%, active participation 5%, homework 13%, presentations 8%, classwork 24% and a final test 20%). Grades ranged from the 60s to the 90s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students were mostly enthusiastic, positive, and willing to learn. This positive outlook contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. Opportunities to build skills (DP5) were provided throughout the course with many students taking advantage of the opportunity to learn.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Goals for the next term include continuing to improve integration of supplementary materials into the current curriculum and increasing opportunities for kinesthetic learning (space permitting).
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Streamlining and improving note taking and completion of class preparation exercises will improve the accuracy of individual assessment and keep students focused on class objectives.

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル発展	1	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が全数を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回行う小テストでは復習の成果が現れており、授業内容の理解度は悪くはなかった。到達度自己評価においては4点がでており、授業の質評価でも4～5であったことなどを根拠と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものとするため、「人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している、看護の対象と良好な関係を築くことができる」と定めたDPに沿うものであり、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、極力全員の理解度が揃うように内容を見直したりして授業のペース配分に重点をおいた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、語学の学習を介して異文化理解深めることで、看護の実践の場でいかせられるようなコミュニケーション力や広い視野を身につけていける人となるよう、今後とも微力ながら努めていきたいとする。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は、前期の「情報処理基礎」の内容を受けて、ICTの応用的な活用手法の修得を主目的とした授業である。「情報処理基礎」で基礎的なスキルと知識は終えているため、本科目では、PCを用いてより実務的な表現手法やデータ活用手法の修得に重点を置いた。 受講動機では、「関心のある内容である」が3割程度に対し、「単位数を確保する」は5割程度となっている。前期の「情報処理基礎」の最終日に本科目の受講意義についての講義を行い理解を促したが、昨年度とほぼ同様の割合となっていることから、まだ十分な改善がはかられているとは言えない状況であるため、更なる検討の余地がある。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「優」以上の学生が6割程度である結果から、授業目標である理想的なレベルを達成できたといえる。 学生の到達度自己評価でみると、全ての項目で「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」が多くの比率を占めている。特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は「かなりそう思う」が他の項目に比べて高くなっている点は、前期の「情報処理基礎」からの継続を考慮した内容が反映されていると思われる。また、専門分野との関係性に関する項目では、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」が多くの比率が昨年度に比べて改善されており、他の項目とほぼ同等の結果となっている。練習課題等に専門屋を意識した課題を取り入れた結果が反映されたものと考えられる。これらの結果より、本授業の趣旨目的から授業目的を十分に達成できている結果といえる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられ、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する目的で、1年生前期の「情報処理基礎」に引き続き後期に実施される選択科目である。前期の「情報処理基礎」で修得した基礎スキルと知識を活用し、より実務的なデータ等の取り扱いや様々なICTするキルの活用手法等を理解させるよう工夫し、学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 専門分野と絡めた質問項目に対して、「かなりそう思う」の数値が昨年度に比べて上がってきている。前年度の反省から看護学科という特殊性を考慮した素材や課題内容等を準備した結果が反映されたものと考えられる。また、基本スキルや知識は問題ないが、それらを組み合わせでどのように活かしていくかという点では、その発想力に問題を抱えているが、成績面では内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、専門分野との関係性について多少改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、前年度の反省を踏まえて改善した結果、専門分野と絡めた質問項目に対して「かなりそう思う」の数値が上がってきている。看護学科という特性を考慮し、扱うデータや課題内容等に専門性を意識させる内容をどのように取り入れていくかについては、次年度に向けさらなる検討をしていきたい。 また、授業以外で如何に活用させるかということも授業のテーマとして取り組んでいたが、授業の課題以外では全く取り組まれておらず、十分な結果を残しているとは言えない状況である。これについても、どのように授業時間以外での活用を促すかについては、再度検討したい。 学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活あるいは社会人基礎力として必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。また、看護という専門職の中で本科目がどのように関係していくのかという点では、昨年度からの改善が見られており、さらなる向上を目指して検討する必要がある。 以上から、専門職を意識させる取扱いデータや課題内容のさらなる改善を図っていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、3年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、そういった状況の中で、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、他の学科の学生から、それぞれの専門分野のことについても聞く機会を設けるなどして、互いに学び合える場も設定した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価で約1割の学生が否定的な回答をしているが、他の学生は肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことをこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみたの内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、3年前期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容になっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP, 行動目標からみたの内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、ほとんどの学生が肯定的な回答をしているが、1割強の学生が否定的な回答をしている。受講生が想定を遥かに超える人数であったため、授業の方法など試行錯誤しながら行ったため、十分な形で授業を行うことができなかったことが原因だと思われる。大人数でも実施しやすいように、授業の方法を改善したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、主体的な意識で授業の望めるよう、キャリアコンサルタントの外部講師から双方向的に学生に働きかけてもらい、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後のコメントカードや、期末レポートで測った。特に、レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。学生は概ね、基準に到達していたが、一部、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまり、社会構造と関連づけられない学生がいた。到達していない学生には社会的視野について解説して再試験を実施し、この段階で全ての学生が基準を達成した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義やDVDの鑑賞に加えて、労働法では弁護士に解説と過労死された方の遺族の話、専業主夫の体験談、本校助産教授による性的自立の解説、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、知識を得るだけでなく共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。学生からは、人数が多いことへの不満が上がっており、この点の解決は検討する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。課題は、人数が多いため、個別的な対応ができないことである。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護形態機能学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	膨大な範囲に及ぶ基礎医学知識に関する講義であり、学生の基礎知識（高校生物履修の有無）にも差があることが予想され、また受講動機にあるように必修科目であることから興味の有無と関係なく受ける科目であったので、 ①なるべく平易に、また興味を持ちやすいように日常生活や医療現場での事例と関連させて、講義を行うよう試みた ②一方向性で知識を講義する形は避けられないが、講義中に随時学生の意見や考えを聞いたり、集中や注意が逸れないように、講義の進行に合わせて教科書と同じ図表をスライドに大きく示し、ハイライトや書き込みなどの指示も具体的に行うなど、心がけた ③内容のほとんどが新しく学ぶ知識であり、量も多いため、復習の支援と促しとして、前回講義の内容の一部について小テストを行った ④折に触れ、医療に関するニュースや事例などを紹介し、看護師という職種の果たす役割、やりがい、責任に考えを馳せる機会を設け、社会人・医療者となる自覚と学習意欲の向上を目指した ⑤解剖学実習に向けて、事前学習と事後学習についてその意義について十分に説明し、また予習方法と事後レポートについては構造化した指導を行った
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	後期試験の平均点は69.1点であり、標準的なレベルに到達していると考えられたが、その内訳は、試験の点数より解剖学実習のレポートや毎回の小テストの点数で加算を得ており、知識が十分に定着していない学生もいることが想定される。 一方で、学生自身の自覚評価は、到達度自己評価において、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた。と評価した学生は28+59/92人、また(6)自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた。とした学生は22+64/92人おり、前期より引き続き、新しい科目に意欲的に取り組み、新しい知識を得たと自覚した学生が少なくなかった。上記に挙げた工夫がある一定の効果を挙げた可能性も考慮しうが、講義内容の特性上、双方向性のやりとりは行いにくく、授業の質評価において、(4)自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの、学生が参加する機会が作られていた、と評価する学生は他項目に比し、やや低く、今後意欲の維持のためにも、改善策が必要と考えられた。 毎回、講義の冒頭に小テストを課したことにより、事前に一回30分以上の復習や準備を複数回行っていた学生が、24+17+38/92人と多く、自己学習の促しには繋がったと考えられた。 解剖学実習については、学生全員、大変意欲的に取り組み、協力大学機関の教員より、その姿勢の評価をいただいた。終了後のレポートの得点平均も17/20点と高く、医療者として糧になる体験であったことが伺える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP 1 知識理解については、上述の通り、意欲的に取り組み、復習などを行うことで、ある程度達成されたと考えられたが、DP2思考判断については、一方的な知識の伝達ではない講義スタイルの工夫も必要と考えられた。 到達度自己評価において、(10)職業選択の参考になった、に対し「、かなりそう思う」とした学生が63/92人おり、看護師・医療職になるべく道を選択した意識の促しとして、刺激となる一面もあったことが伺えた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前期試験が60点に満たなかった学生には再試を課したが、合格ラインに達したとはいえ、同問題であったにも関わらず点数は伸びず、学習の取り組み方に難しさを抱える学生がいることも伺え、支援策の検討を要すると考えられた。 後期の小テストでは、国家試験の過去問などを取り入れ、講義で学習した内容の定着と多面的な理解の必要性について実感できるよう工夫をしたが、知識の定着なく、選択肢問題を解くことは難しい状況であることが浮き彫りになった。 また、一年生で学んだ基礎知識が、以後の臨床系の講義や実習の基盤になることを伝えながら、いかに短期記憶として表面的に知識を丸覚えするのではなく、物語として、その因果関係を、疾患の理解・検査の意義の理解・ケアにつなげていくかを意識しながら学生が学べるよう、今後工夫を重ねる必要がある。 また臓器、機能系統別に、臨床の看護実践とリンクしやすいような工夫も今後必要と考えられ、他領域との連携も必須と考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	知識ベースの科目であり、その点においては、一定程度の達成が見られたが、その定着については評価は困難であり、継続的な支援は必要と考える。学生たちの中に、基礎的な医学知識を学ぶ意欲や努力が見受けられたので、信頼関係を築きながら、その姿勢と得た力を維持できるよう支援の工夫を今後重ねていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養学	2	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	臨床栄養とは、傷病者のさまざまな病態や栄養状態等に応じた総合的な栄養管理を行うことであり、病院で実施される栄養管理は、チーム医療を基盤にして行われるものであることから、看護師として、臨床栄養の基本を理解しておくことは必須である。本科目では、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。 本科目は卒業必修科目であり、全学生の受講動機は『必須科目である』との理由であった。また、学修準備性については、約半数の学生がほとんど準備をせずに受講し、受講後の復習も十分でなかった。また、自発的学習に取り組んだ学生においては、全体の5%と非常に少なかった。いずれの理由においても、本科目では毎回の課題はなかったことに加え、学生は多忙を極めていることや他科目の課題に取り組むことに精一杯であったためと考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は76.1（±9.8）点であり、本試験合格者は95%であった。実際には、41名(43%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は36名(96%)にも上った。試験内容としては、全て講義内容からの出題であり、学生の到達度自己評価では、全学生が専門的知識および技術の修得ができたと回答していたことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。ただ、自由記述として、講義内容の重複に対する指摘があり、このことについては、真摯に受け止め、講義内容を細かに記録し、再発防止に努める。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。入院患者の栄養管理はチーム医療のもとで実施されており、近年、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師の専門性を発揮することが求められている。つまり、患者の生活を視野におかなければならない看護師にとって、臨床栄養の知識は必須であるといえる。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、全ての学生が参考になったと回答していたことから、臨床栄養の知識が看護師にとって必要であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、内容的妥当性については問題ないものとする。しかしながら、講義内容に対する意見もあったことから、次年度以降の課題として、対応したいと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題はなかったものの、自由記述における講義内容の重複の指摘があったことから、本科目の内容等については次年度以降、同様のことが生じることのないよう、配慮したいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師としての専門性を発揮することのできる能力を養い、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。学生の達成度自己評価において、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答していたことから、本科目の内容等についての問題はないものとする。ただし、自由記述として、講義内容の重複に対する指摘があり、このことについては、真摯に受け止め、講義内容を細かに記録し、再発防止に努める。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	工藤 二郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学総論	1	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	臨床を行う上で必要最少限な医学知識であるが、それでも耳慣れない単語が非常に多いことはわかっているため、できるだけ平易な説明を心がけた。 毎回シラバスを確認し、授業の目標を確認して授業を開始した。授業の終了時には次回の予定を一言説明した。 キーワード（医学用語）のノートを毎回チェックし、書写を促し、漢字の説明をした。あらかじめ自宅で予習として記入するよう促した。ただし半数ほどは時間がなかったようで、授業の最後に教員が発音するのに合わせて記入していた。教科書の重要な表などを説明し、パワーポイントで補った。 パワーポイントのプリントは毎回配布し、内容には国家試験に頻出の事項を多く入れた。 キーワードのノートをあらかじめ自宅で書いてきている学生もいたので、褒めておいた。 知識の正確さが重要であるので、テストでは記述問題を出し、個別の知識が正しく、かつ総合的にも正しい理解をしているかをチェックした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講人数は95名、期末試験を受験したものが92名、最高93点、最低36点、再試験を受けたものが4名であった。5点ごとのヒストグラムのカーブがほぼ正規分布状で、良好な教育がなされたと思われる。なお、追再試を受けた6名は全て合格した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	最も基本的な医学臨床の必須科目であり、国家試験に多くの問題が出される領域である。カリキュラムマップ上では、時期的にも最適な時期であり、教育内容も至極妥当なものと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の意見も非難めいたものはなく、複数の学生はさらなる情報を得ようと図書館を利用したとあり、学習意欲も削がれなかったのではないかと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度としては例年とほぼ同様で、良いレベルに達したと評価している。実際の病人に対応するにはこの知識を基に技術を磨く必要があり、そのこともコメントすべきであろうと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。 疾病学各論Ⅱは、前期科目の疾病学各論Ⅰに引き続くもので、内科疾患（腎臓疾患、血液疾患、感染症）、小児科疾患、精神科疾患が範囲です。内科疾患は私が担当しましたが、小児科と精神科は専門医に講師を依頼しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が96%と大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などの回答も約10%あり、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験とポートフォリオ提出の総合判定で、平均値は77.5点（最高95点、最低58点）でした。秀：8名、優：34名であり、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが全体の43%でした。学生間で点数差のばらつきが顕著でしたが、ほとんどの学生が標準レベルには到達したと判断しました。なお、内科の平均点が21.4点/30点で、小児科の平均点が24.6点/30点、精神科の平均点が22.2点/30点でした。以前に比較すると、分野により得点差が縮小しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。コミュニケーションや表現力の評価がやや低いのは、主に医学知識を教授する座学の講義であるのでやむおえないと思います。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。ここの内容を理解していないと、今後の看護科目の勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての業務の全てにおいて支障を来します。「疾病学各論Ⅱ」は1年次の「看護形態機能学」「医学総論」、2年次前期の「疾病学各論Ⅰ」「薬理学」で学んだ知識に基づいて、同時期に開講する「看護のための臨床検査」と連動して授業を行います。 試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「ままそうだと思う」以上の評価を得ています。以前は評価が低かった学生参加に関しても、ポートフォリオの提出を取り入れてから改善傾向にあります。 自由記述でも授業内容や形式について肯定的な意見が多かったです。前年度は改善要求が多かった精神科に関しても、今年度から講師が変更したこともあり高評価でした。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは約3割で、昨年より減少しています。今年度から後期授業となったため、前期の疾病学の授業からマンネリ感があったのかもしれませんが。もっと興味を持って貰えるように工夫したいと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。今後も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。4年生の疾病学特論では臨床現場で注意することを改めて解説します。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護のための臨床検査	2	後期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	現在の臨床現場で、検査は診断の確定、重症度の判定、治療効果の評価など、様々な場面で重要な役割を果たしています。看護師が自分で検査を行うこともあります。検査データから患者さんの病態を把握することは、看護を行うために不可欠です。看護師国家試験にも検査に関する問題は出題されます。 本科目では、血液検査や尿検査だけでなく、画像検査や生理検査など幅広い内容を対象としています。主要な検査項目の意味やデータの解析を説明するだけでなく、心電図、肺機能、骨密度、検尿、血液型測定などの検査手技に関する演習を行って、臨床現場で「現物を初めて見た」と戸惑わないように工夫しました。また、疑似症例の検査データを提示して、そこから病態を把握する方法を解説しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、全員が「必修科目である」ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」もあります。授業を受けて本科目の内容が看護業務に直結するものであることを、学生さんは理解してくれたものと期待しています。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験、レポート、授業貢献度を加味した最終成績の平均値は83点（最高100点、最低53点）でした。秀：34名、優：25名であり、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが全体の61%でした。 例年と同様に期末試験に教科書の持ち込みを許可し、教科書を見ながら提示された検査データを解析して患者の病態を把握する問題を中心に出题しました。知識理解だけでなく、思考判断の力を評価する問題になったと考えています。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの観点において「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数です。コミュニケーションや表現力に関する評価がやや低いのは、座学が中心の授業ですのでやむおえないところもありますが、次年度の課題にしたいと思います。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。臨床検査に関する知識や検査データから病態を把握する力は、今後の看護科目の学びや将来の看護師業務に必要不可欠です。 1年次から受講してきた「看護形態機能学」「疾病学総論」「疾病学各論」「薬理学」などの知識をもとにして、検査結果の解析をととして臨床応用力を身に付けることができたと思います。 成績結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「ままそうだと思う」以上の評価を得ています。 自由記述でも、演習お行ったことは高評価でしたが、もう少し時間が欲しかったという意見もありました。次年度は演習のやり方に工夫を加えたいと思います。 DVDを使った授業や患者データによる病態把握の説明は肯定的な意見が多かったです。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を複数回行っているひとや、図書館やネットを利用して勉強したひとは少数派でした。 もっと興味を持って貰えるように工夫したいと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、約2/3のひとが理想的レベルに、ほぼ全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。 実際の検査手技の演習を行い、検査データから病態把握をする方法を学んだことは、これからの看護学の勉強に役だったと考えます。 試験は例年と同様に教科書の持ち込みを許可し、検査データを解析して病態を把握する問題を中心に出題しました。学生さんの知識だけでなく、思考・判断の力を評価することが出来たと思います。試験結果をみると、思考・判断の力がやや弱点であると感じました。これからの大学生活で、目の前のデータから物事を考える力を身につけていって欲しいと期待します。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健統計学	1	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保険統計学は、人間集団における健康や疾病の状態を観察および解析して、それらに影響を与える要因を明らかにし、疾病の予防やコントロールを行おうとする社会医学の基礎です。臨床医学でも EBN: Evidence Based Nursing（根拠に基づいた看護）を行ううえで保健統計学の知識が必要です。また、保健師の業務には密接に関連する領域であり、保健師国家試験にも保健統計学に関する問題が多く出題されます。 学生にとって馴染みの薄い分野ですので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計(改訂3版)」を使用して、基礎から分かりやすく解説するように心がけました。授業の前半は前回の復習にあてるようにしました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」の回答も見られます。看護師や保健師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績評価の平均値78.6点、標準偏差10.8点、中央値81点でした。最高値100点で、最低点は43点でした。秀が16名、優が36名で、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが52%でした。学生間で成績のばらつきはありましたが、大多数の学生さんが最終的に標準レベルに到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、馴染みのない分野にも拘らず、全ての項目において平均値が4.2以上でした。コミュニケーションの項目はやや低値でしたが、講義内容から考えてやむおえないです。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。社会医学の基礎であり、臨床現場でのEBNや看護研究などでも必要な知識です。ここの内容を理解していないと、今後の看護学科での臨床医学に関する授業、看護師・保健師国家試験、将来の看護師・保健師としての仕事において支障を来します。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、「説明は理解しやすかった」の項目は平均値4.7と高い値でした。授業の進め方については満足度が保たれていたと考えます。自由記載でも「分かりやすかった」とする肯定的な意見が多かったです。ただ、「学生が参加する機会が作られていた」の項目は平均値4.4とやや低い値でした。この点は例年の課題ですが、知識を教授する内容がメインですので、なかなか難しいです。 また、学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている受講生が約半数と例年より多かったです。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは少数派でした。学生が自ら勉強したくなるように興味を持ってもらうことが今後の課題です。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は保健師コースを選択するひとはもちろん、看護学科の全ての学生さんに必要な内容です。学生さんによる成績差はありますが、標準的レベルに到達することができたと判断しました。 看護学科の1年生にとっては馴染みのない分野であったにもかかわらず、全員が頑張って勉強されたと思います。 今後は、学生さんがもっと興味を持って積極的に参加できる授業にすることが課題と考えています。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会保障概説	1	後期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生を柱として、看護職として活動するために不可欠な保健・医療・福祉の諸制度や法的根拠を解説している。中学・高校で学んだ「公民」の内容が基盤であるが、看護学科の学生は法律や法律用語にかなりの苦手意識がある。受講動機を見ても、「必修科目である」から受講しているものであり、「関心のある内容である」は3.5%である。そのため、学生の「苦手」を前提に講義内容を組み立てている。 テキストを購入しているが、専門書であるため初めは敬遠されている。毎回、中学・高校で学んだ内容から復習し、講義の流れに沿ったオリジナルプリントとスライドで解説している。授業の記録について、授業評価で「主に配布資料に記録した」が9割を超えており、活用されたと評価できる。 講義の最後に出席シートに授業の感想、質問を記入してもらっており、記入された質問には、必ず紙面にコメントまたは次の授業で回答していた。しかし、「口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の設問で「まあまあそうだと思う」26%、「わりにそうだと思う」43%、「かなりそうだと思う」26%であった。不明なところをどのように質問するかがわからない学生がいたのかと推測する。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均点76.9点(昨年70.8点)であった。成績の内訳は、秀 11名（昨年2名）、優 29名（昨年16名）、良 32名（昨年39名）、可 23名（昨年48名）、再試放棄 1名（昨年1名）であった。昨年と同レベルの試験問題であったため、習熟度が高いことがわかる。しかし、授業評価では「自分なりの目標を達成した」は、「少しそうではない」が1%、「まあまあそうだと思う」29%、「わりにそうだと思う」45%、「かなりそうだと思う」25%であった。 テストは、暗記で解答できる問題と、事例を考える問題を作成している。レポートは、「形式」「独自の考え」「根拠」「一貫性」「提出期限」を指標に採点した。初年次セミナーでレポートの書き方を学習しており、その形式を使って書くようにインフォメーションしたところ、多くの学生が形式を守れていた。 この講義は、社会保障制度と社会問題を解説する内容であるため、授業内容の予習、復習を期待していたが、6割が1回以上の予習、復習をしていた。さらに、4割が図書館の文献、雑誌を利用していた。1年生で科目数が多い中、自己学習してくれた学生がいたことを評価するとともに、これからも社会の問題を自分で調べていける学生を育成したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、看護実践の基盤に位置付けられている。しかし、健康や疾患を取り扱う科目でないことから、看護専門科目であることを意識できない学生が多いように思われる。そのため、社会保険、社会福祉の制度、法的根拠、対象、サービス内容、について「知識・理解」を得るために解説し、患者を想定した事例を通して「思考・判断」をしていく授業展開にしていた。具体的には、2～3回分の講義内容について、事例を通して振り返りをし、知識の確認と実際の対象の状況を考えていくように取り組んだ。 また、看護師国家試験においても一定数の問題が出題されている。そこで、実際の国家試験問題を紹介し、「国家試験にはこう出る」という練習問題を実施し解説していった。これらの問題に関して、学生の関心は高かったように感じた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この科目は、まずは制度と法的根拠、その仕組みを「覚える」「理解する」が必要である。それから「なぜ？」や「課題」を思考していく。授業評価の自由記載をみると、「授業以外に学習に取り組んでいない理由」で「忙しかった」「時間がなかった」「分からなかった」と複数書かれていた。学生に、「まずは覚える」と「それから考える」の説明が不足していたのかもしれない。授業中に質問がないかを尋ねても声が上がらない。そのため、毎回、自記式の出席カードを配布し、必ずコメントを記入してもらった。毎回、それに答えるようにしていたが、自分の考えではなく「先生はどう思いますか？」という内容には、「あなたはどう思いますか？」と返していた。また、「～すべきだと思います」という内容では、そのデメリットを考えさせる内容を返していた。答えがある場合と、課題が残る場合があることを説明し、授業の解説を聞いてわからない時には、調べたり質問したりできるように、意識啓発や意欲の向上に努めたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護活動には、保健・医療・福祉の制度の知識が不可欠である。学生にとって法律について苦手意識があるが、法律の知識で患者を支援できることを繰り返し説明し、主体的に学んでもらえる動機づけをしたい。 医療保険や介護保険の授業では、家族に対象者がいたり、医療職や介護職の親から話を聞いていて、身近に感じてくれる学生もあった。自分に関係ないと思うのではなく、身近に感じてもらうことで、興味を持たせたい。また、授業のねらい、達成目標、評価基準を共有し、学生自らが学ぶ目標をもてるようにしていきたい。 授業展開については、一方的な講義形式にせず、学生同士で話し合ったり確認し合ったりすることを加えていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床健康心理学	2	後期	選択	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義では臨床心理学の基礎知識を活かした発展的な内容を扱うが、学生の学習準備性を考えると、全員が発達心理学や臨床心理学などの講義を受講しているわけではなく、学生によって心理学知識への理解度に差がある考えられた。 そのため、臨床心理学の基礎的内容について触れながら、その知識が医療現場でどのように表れてくるのか具体例をあげるなどし、基礎的内容から発展的な内容まで展開できるよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講学生の成績の平均値は、87.3点（SD＝6.95）であり、授業での目標を概ねの学生が達成できていたと考えられる。「到達度自己評価」では、知識の習得の獲得を問う質問と思考判断力の涵養を問う質問とで、平均点に差はみられたなかった。しかしながら、8回の授業という回数を考慮すると、臨床心理学的な視点からの適切な思考や判断を十分に達成したとは言い難く、「やや達成された」レベルが妥当と考えられた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生によって臨床心理学の基礎知識への理解度に差があった。初めて心理学の講義を受講する学生に配慮しつつ授業を展開し、8回の授業であったため、発展的な内容に踏み込むことが難しかった。授業内容を踏まえると、基礎的な学習を踏まえて受講できるようになると、より望ましいと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「図書館やインターネットの利用」について、「利用しなかった」が大多数であった。他の授業との負担を考慮しながらも、次回からは、授業内容に関連した推薦図書や、実習中などに振り返る材料となるような図書、教材について紹介し、学生が自発的に興味をもって学習に取り組めるよう心掛けたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	臨床心理学および臨床健康心理学に関する基礎知識の獲得については、概ねの学生が目標を到達できたと考えられる。思考や判断力については「やや達成された」レベルであると考えられるため、学生自身が関心をもって授業に関連する領域の学習を行ったり、実習中に必要となって振り返りができるよう推薦図書等の紹介を行い、学生自身が実体験と結び付けながら臨床心理学的な視点からものごとを理解し判断する姿勢へとつながるよう配慮したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	工藤 二郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
医療と倫理	1	後期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	医療と関係する重要な倫理的諸問題を講義した。国家試験にも必須問題などで出題されることがあるため、ポイントを押さえるように心がけた。 毎回シラバスを説明して講義を開始した。一方、82%の学生がシラバスを参考にしたと答えている。また、8名が先輩から勧められたと答えており、興味を持っていたと考えている。 毎回講義で扱った主題について具体的な作文を課し、配点した。作文を分析し、次の時間に重要な点を強調して説明した。例えば、インフォームド・コンセントを得るのに最も重要なのは、患者本人から、であることをあやふやに考えている学生がいたりするので注意を促した。 パワーポイントのプリントは文字を少なくし、画像をできるだけ多くした。幾つかの教科書を紹介した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講生は選択科目にしては75名と多く、最高94点、最低70点であった。5点ごとのヒストグラムは、正規分布になっており、妥当な教育が行われたと考えている。極めて具体的な問題に答える作文を8回課し、全員が合格点に達した。 毎回の作文を読むと、ほぼ全員が主題の問題点を理解していることがわかった。作文は内容や文体について高いレベルを保っていた。目標は達成されたと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目は選択科目であるが79%の学生が受講し、先輩に勧められたとする学生も10%以上いて、強い動機をもって受講したと考えている。他の科目である「看護倫理」が必修であるので選択科目であるのは妥当と考える。また、入学後の少し慣れた時期で、考察も出来、適切な時期ではないかと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生位の意見では、事例が聞けてよかったとか、実体験の話が良かったなどがあった。看護師になる上で大切なことを考える良い機会となったのではないと思われる。インターネットのホームページを検索し、利用した学生が40%、図書館を利用した学生が16%と、関心が失われなかったように思われる。今季はレポートが多すぎるという意見は無く、特に反感は感じられない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度は包括的に良いレベルまで達したと思われる。一方医療倫理では、ゲノム編集や乳がん・卵巣癌の予防手術などの問題が出てきており、授業内容を検証して変化させていく必要があると考えている。来季は予防手術などの問題も加える予定である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護倫理	2	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護倫理は必修科目であり、受講動機は単位の取得である。8回の授業であるため、看護倫理の原則とされている知識を学び、事例をとおし理解が深まるように重点をおいた。受講生は基礎看護学実習Ⅱの実習を履修し、受け持ち患者の看護を体験している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は、平均が84.5±7.8点であり、Sが25%、Aが59.4%、Bが12.5%、Cが3%であった。 学習目標に掲げている看護倫理の原則、看護者の倫理綱領、看護現場で起こりうる倫理的課題とその解決法などの知識は理解できたと考えられる。また、倫理的課題のある事例についてのグループワークでは意見交換し、発表する機会を作った。倫理的課題と解決法の考え方については、授業後の自己評価(ルーブリック評価)で、理解できたと回答していた。また、「今後の看護に求められる倫理について考える」というテーマで、サブテーマを各自で設定してレポートを提出するように課題を出した結果、全員がサブテーマを考え、期限までに提出していた。最終の授業評価では、学習到達度の自己評価において、「判断する力」「課題を検討する力」「学びを深めたいと意欲をもつ」「職業倫理や行動規範」などに97%以上の人々が肯定的な評価であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	看護倫理は2年次後期の基礎的な科目に位置付けられている。基礎看護学実習の体験についても、振り返ることが可能であり、実践と結び付けて考えることができる位置にある。態度については、今後の各論実習での実践をととしてさらに修得していくものである。本講義では看護倫理に関する基礎的知識を理解し(DP1)、態度(DP4)について理解ができたレベルと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	8回の講義のうち、4回をグループワークによる事例検討と発表にしており、「学生が参加する機会」を設定したところ、肯定的な評価は96%であった。また、「何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は、98%が肯定的な回答であり、毎回、授業終了時に練習問題と質問・感想用紙を配布・回収し、次回の講義時に返却するようにしたことがよかったと考える。また、「説明はわかりやすいものであったか」という問いには、88%が肯定的な評価であり、否定的評価は12%であった。今後は、説明の工夫をする改善が必要であると考え。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護倫理の講義では、基礎的知識と態度について、学習目標を達成することができた。今後の課題は、講義において、学生に分かりやすい説明を工夫することである。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活援助技術論演習	1	後期	必修	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は「必修科目」(100%)だが、「資格取得に必要」(22.6%)、「関心のある内容」(11.9%)も認めており、学生の技術習得への関心が高かえる。授業の実施に対して重点をおいたことは「基本的援助技術の習得と根拠の思考」「愛護的関わり」「臨床との合致性」である。このためアクティブ・ラーニングを心がけ、「教えて考えさせる」を心掛け、まずは講義を実施後、実習室での技術演習へとつなげ、ワークシートを持ちて思考力が高められるようにし、学生が技術実施のみに集中しないよう授業を構成した。学生には質問を投げかけ、考える習慣がつくようなコミュニケーション方法に留意した。また実技試験に関しては、今までは「導尿」という手技の試験を行っていたが、この実技は侵襲を伴う技術のため学生が実習でこの技術を活用することはできない、また手技だけに特化してしまい、エビデンスの理解には至らない場合も多々あったため、今年度より「車椅子移乗援助」「清潔ケア援助」「排泄ケア援助」など、学生が実習で活用できるテーマに変更し、また具体的な患者の事例を設定、基本的な援助技術に患者の個性も加え看護を展開できるような方法に変更した。またグループダイナミクスの発展も考慮し、一人ではなくペアで課題に取り組むように変更した。実技試験によって成功体験が得られるよう自主練習期間を設け、この間は基礎看護学の教員が支援に入り、学生の思考と技術習得のファシリテートに努めるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の達成度評価は、試験：60%、レポート等の提出物15%、実技試験25%による総合評価としている。最終成績の平均値は70.1±9.50点（最92点、最低49点）であった。成績の内訳は、秀1名(1%)、優10名(10%)、良40名(43%)、可38名(41%)、不可4名(4%)であった。筆記試験においては100点満点中、平均は63.5点で、昨年度と比較すると最終成績の平均値や筆記試験のみの成績は微減、また優の取得者率が半減以下となり、不可の学生が1名から4名となった。この4名の学生の実技試験成績は平均値前後を取得しており、不可となった主要理由は筆記試験成績である。よって「全体」「知識理解」「思考判断」はやや達成されたという評価と考える。しかし学生による授業評価では、「自分なりの目標を達成した」は4.5点で、その他の項目においても全て4.5点以上の平均値である。学生は今回の実技試験においても、多くの自主練習を能動的に行い、また実習室使用後の清掃などの倫理的行動は近年の学生の中で最も素晴らしい行動を示した。また教員や仲間の意見等にも傾聴する力もちグループダイナミクスも発揮していた。このような授業への取り組み姿勢が上記のような自己評価になったと考えられ、よって「態度」は達成されたという評価になると考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護師の役割である「療養上の世話」の基本的知識と技術を学ぶ科目であり、看護実践の基本である。このため患者を生活者として捉え、個性性を考えながら、愛護的関わりが求められる。学習到達度の自己評価より、学生は看護の専門分野において、課題を検討する力、的確な判断力、意欲や技術の習得、コミュニケーション力、ルール遵守、職業選択において、すべて4.5点以上の評価をしている。また課題以外での学生の取り組みとしては、実技試験のための自主練習も多い学生が10回以上行い、図書館も役78%以上の学生が利用を行っており自主学習を行っている要素が存在している。よって、専門科目として知識理解や思判断、態度において、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業に関しては、イメージを付けやすいように「活動を援助する技術」などタイトルをつけ、活動、栄養、清潔、排泄、感染予防など日常生活行動内容を鑑み授業は構成している。まずは講義で基礎知識を教授後、演習室でアクティブラーニングを活用しての演習を行う体制を継続し、実習で活用できる実技試験に変更した。ワークシートを活用して思考の発展を支援し、ポートフォリオを活用して学習した内容をまとめるようにした。演習は4～5人の固定メンバーで実施し、グループダイナミクスが発揮できるように調整を図った。これによって授業の質評価の全ての項目が4.3～4.6点であった。授業参加においては90%以上の学生が予習復習を1回予習復習を30分以上行っている。また約半数の学生が図書館等の利用・活用を行っていたため、基本的には、次年度も今回の方法を継続していきたいと考えるが、時間調整にさらなる工夫を加え、学生同士の意見交換が行える時間を確保したいと考える。 学生からは「教員によって言うことが違う」との意見があったが、生活援助技術は診療技術と異なり、患者の状態や、看護師の看護観によって、援助方法が異なるのが常である。よって学生には授業中より「答えは一つではない」と説明している。また授業の資料もほとんどは数日前にKaname.netにアップしており遅延しているとは思えない。また授業の終了時間もほとんどスケジュール通りに進んでいる。後片付けも一定の時間（20分前後）は確保しており、終了時間をルーズにはしていない、掃除に時間を要したとしても、それは学生が工夫し協力していくことであるとする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生による授業評価としては、すべての項目で4.3点以上の評価を得た。自由記載内に「も説明が分かりやすい」「質問にも気軽に答えてくれる」「実習頑張ります」のような肯定的な意見も聞かれた。ただ最終成績や評価は、昨年度よりやや低下傾向となり、不可で再履修の学生を4名認めた。よって授業の総括的達成状況としては「やや達成」と考えられ、今後もアクティブラーニングを継続しつつ、学生の知識理解や思考判断能力が高まるような工夫を領域全体で思考する必要がある。

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フィジカルアセスメント技術演習	1	後期	必修	いいえ	97

該当に○	知識理解（ＤＰ１）	思考判断（ＤＰ２）	意欲関心（ＤＰ３）	態度（ＤＰ４）	技能表現（ＤＰ５）
	○	○	×	×	○

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	フィジカルアセスメント技術演習の授業にあたっては、以下1～5を大切と考えて授業を行っている。 1. 看護アセスメントの前提となる基礎知識の理解はもとより、看護の対象の身体状態を正確に把握するために必要な基本看護技術（バイタルサイン測定技術など）を確実に習得できるように支援する。 2. 「生きている」ための機能に係る主な器官系（呼吸器系・循環器系・消化器系）のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する。 3. 「生きていく」ための機能に係る主な器官系（感覚器系・脳神経系・運動器系）のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する。 4. 看護の対象を身体的、心理・社会的側面から総合的に理解することの必要性和その見方・考え方を、概説的な捉え方にはなるがわかるように支援する。 5. 演習（技術習得の過程）を通して看護者役割を演じる自己を客観視し、看護者に望まれる姿勢・態度についても考える機会とし、期待される行動や態度を養成できるように支援する。
--	--

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP１）	思考判断（DP２）	意欲関心（DP３）	態度（DP４）	技能表現（DP５）
	達成された	やや達成された	やや達成された			達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 < 授業評価の指標 > 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	当該科目は「必修科目」（100%）である．従って，学生は否応なく履修せざるを得ない．従って，受講動機には，今年度も「資格取得に必要な」（22.7%），「単位数を確保する」（4.5%），「GPAをあげる」（2.3%）を選択した学生が殆どで，一部「関心のある内容」（9.1%）とした学生もいたが，1名とはいえ「友人が履修している」（1.1）を選択した者もあり，授業中の全体印象からも，昨年度ほどの意欲・関心は感じとれなかった．科目の成績評価は，例年同様，筆記試験(60%)，実技試験(25%)，課題レポート及び学習貢献度（15%）による総合評価とした．成績の最終結果は，秀 3名(3.1%)，優 15名(15.6%)，良 37名(38.5%)，可 37名(38.5%)，不可(再履修者) 2名(2.1%)で，クラス平均は71.1（SD± 11.31）点，最高 95点，最低 6点と開きが大きく，全体的にも昨年度の成績を5ポイント以上，下回っており，クラス全体で「標準レベル」を超えた学生も52名（54.2%）と少なく，「知識理解」及び「思考判断」においては，教育目標は「やや達成された」と判断した． 学習量の評価に関する自由記述では，「図書館を利用」「自分で重要事項をまとめた」「実習室で自主練習に取り組んだ」「事前に動画を視聴したり，教科書を読んだりした」の記述から，自主的に「予習・復習」に取り組む学生の学びの姿勢・態度を窺い知ることができた．到達度自己評価では，全項目中央値：4.0～5.0，平均値：4.2～4.6の範囲にあり，全体的に高かった．10項目中2項目は平均値が中央値を上回っていた．中央値より高かった項目は「自分なりの目標を達成した」（4.2/4.0）と「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（4.3/4.0）であった．他の8項目は平均値が中央値より低かったが，各値は平均値4.5以上/中央値5.0で，10項目中「知識を確認，修正したり，新たに得ることができた」（4.6/5.0）の平均値が最も高かった．残り7項目「自分が学ぶようとしている専門分野のさまざまな課題を検討することを得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において，的確に判断する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について，自分の考えを述べることができた」の3項目は平均値が中央値より低かったが，それぞれ4.5/5.0，4.4/5.0，4.3/5.0であり，全体的に高かった．					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	当該科目が「必修科目である」(100%)こと、また、学生が「資格取得に必要である」(22.7%)との認識をもって受講していたことから、学生の到達度自己評価「自分なりの目標を達成した」(平均値4.2/中央値4.0)は、学部全体の平均値(3.7)を上回っており、学生は「自分なりの目標をもって」主体的に授業に臨んでいたと考える。また、学科の到達度自己評価(1)と同値であったことから、DPから見た科目の位置づけ、当該科目の学習目標の内容的妥当性及び教育目標の達成度についても、全体としては「達成された」とする判断は妥当と考える。学生の自由記述からも、本授業の準備・修得のために「予習・復習」したり、「図書で調べた」り、「自主学习／自主練習」に取り組んだり、進んで「重要項目をまとめた」り、看護の対象者の身体状態を正確に把握するための基礎知識・基本技術の修得に向けて、「学生が達成すべき行動目標」の達成を目指して努力を惜しまず学習に取り組んだ様子が窺われ、DP4「態度」は「達成された」とする判断も妥当と考える。但し、DP1「知識理解」、DP2「思考判断」に関しては、学生の到達度評価(3)～(5)は平均値4.3～4.5/中央値4.0～5.0と低くはないものの、昨年度と比較して、①成績評価の結果は5ポイント以上下回っていた、②標準レベルに到達した学生の割合は54.1%で昨年を30%近く下回っていた、以上2点を根拠に目標到達度を「やや達成された」と判断した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1年次生96名を対象に、例年同様、看護の対象者の身体状態を把握するためのスクリーニング技術（バイタルサイン測定技術）、「生きていく」ための機能に係る呼吸器系・循環器系・消化器系、「生きていく」ための機能に係る感覚器系・脳神経系、運動器（筋・骨格）系のフィジカルアセスメントに必要なフィジカルイグザムの習得を目指して、講義・デモンストレーション・技術演習・実技試験の流れで1単位30時間（2コマ連続8回）の授業を行った。時期的には、実習に伴い看護学科助教・助手の支援がほぼ確保できない中での演習となる。加えて、今年度も基礎看護学担当教員数未充足（本来7名のところ2名不足の5名）の体制で授業(演習)せざるを得ず、例年より少ない学生数であったとはいえ、96名に基本看護技術を確実に習得させるには、人的に十分な学習環境を提供できたとは言い難い。常に、きめ細かく適切に支援できたかに不安があったが、学生の「たくさんの技術を身につけることができてよかった」に安堵した。但し、特定助手の学生対応につき、昨年度に続き類似の記述が1件あった。今年度、新任助教も加わったことから、学生への関わり方（平等性・公平性・呼称の仕方など）については、再度検討の場を設け、基礎看護学担当教員及び助教・助手の質の担保に努めたい。 学習量の評価については、いずれも8割以上の学生が「予習・復習」「自発的学習」「調べ学習」「図書利用」「自主練習」に取り組んでおり、情報利用についても、84.8%の学生が「シラバスの記載を参考にした」と回答、「あらかじめ授業の計画を立てた」学生も全体の54.3%を占めていた。図書館等利用についても、図書館の図書等を利用した（81.5%）／しなかった（17.4%）、SNSを検索・利用した
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	当該科目の成績評価は、筆記試験(60%)、実技試験(25%)、課題レポート及び学習貢献度（15%）による総合評価としている。成績の最終結果は、秀3名(3.1%)、優15名(15.6%)、良37名(38.5%)、可37名(38.5%)、不可(再履修者)2名(2.1%)で、クラス平均71.1（SD±11.31）点と、昨年度を5ポイント以上下回っていた。クラスとして「標準レベル」を超えた学生も52名（54.2%）と少なく、以上より、「知識理解」「思考判断」について、教育目標は「やや達成された」とした。一方、学生による到達度自己評価は、全項目中央値：4.0～5.0、平均値：4.2～4.6の範囲にあり、全般的に高かった。10項目中2項目、具体的には「自分なりの目標を達成した」(4.2/4.0)と「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.3/4.0)で平均値が中央値を上回っていた。平均値(4.5以上)が中央値(5.0)より低かった他8項目についても、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値(4.6)は10項目中で最も高かった。残り7項目も平均値は全て4.5、いずれも学部、学科のそれを上回っていたことから、上記成績評価を考慮しても、当該科目の教育目標を、全体を通して「達成された」と判断した。 授業の質評価においても、平均値が中央値を上回っている項目が多かった。主体的学修を促そうとの教員側の取り組みは、教育目標の達成に有効であったと考えている。 今後の課題は、学生の学ぶ姿勢、学ぶ意欲関心は授業時の全体印象ほど低くはないと推察できるものの、そうした態度・行動が「知識理

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護学概論	1	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、1年生の前期科目となり、2年目をむかえる。学生の受講動機は、例年変わらず「必修科目である」ことが、97.8%を占め、ほとんどの学生の動機となっている。 例年、この事を踏まえ、第1回の授業では、シラバスによる説明で、本科目を学ぶ意義について重点をおいた説明を行い、毎時の授業では、講義開始の冒頭で本時の学習目的を学生の理解しやすい言葉で説明した。初年次の学生の講義であることを踏まえ、毎時のコメントカードで得られた学習内容への質問・意見等は次の講義冒頭に還元し、学習内容の理解に努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76.1点であり、再試対象者は7名であった。標準的レベルに達した学生が92.5%であった。内、理想的レベルに達した者は43.0%と、4割の学生が達成した。 目標別にみると、知識理解に関しては80.4%、思考判断に関しては80.0%、意欲・関心に関しては66.0%であった。 対象学年が1年生であることをふまえ、今年度は学生にできるだけ生活者の目線における地域の看護を理解しやすい内容及び学習方法の検討を行なった結果、知識理解及び思考判断は、80%以上達成したが、意欲・関心は60%台となった。 学生による授業評価においては、到達度自己評価では、3.9～4.2を示しており、受講動機における関心の低さに比べ、全体的に関心を示している状況が伺えるが、本年も同様の傾向がみられた。学生の親しみが少ない保健師活動が具体的にイメージできる導入科目としての役割を果たしていると考えられる。 授業の質評価の項目において、「説明は理解しやすいものであったか」については、（まったくそうでないと思う・少しそうでないと思う）と理解しづらさを感じていた学生が0%であり、平均値3.9～4.2を示している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の質評価において、昨年度、3.5から3.9であったものが、今年度は3.9～4.2と改善している。対象学生は違うため一概には判断できないが、1年生であることを踏まえ、理解しやすい授業を構成することと、学生の主体的参加への試みが少しずつ改善していることが伺える、最終的に目標達成のための成果として、得点の上昇は確認できる。 教育課程における本科目が果たす位置づけとしての内容的妥当性は、求められる状況を近づいていると考えられる。 受講動機から授業後に学生の変化が見られることが学生自身が実感できる授業の展開を継続的に目指したい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、保健師課程のみが必要とする科目と捉えがちであるが、教育課程においては「看護の基本」に位置づけられており、これからの日本の状況を考えると、地域での生活者への看護者の視点は、基盤となる科目である、 1年生である科目となり、2年目となるが、本年度も特に科目導入時及び毎時の授業時に学習する意味について説明を加え、授業を展開したことで、科目の評価として、92.5%が標準的レベルに達し、かつ4割の学生が理想的レベルに達した。加えて「理解しづらさ」を感じた学生が0%であることは、学生が達成すべき行動目標が概ね達成できたと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教育課程においては「看護の基本」に位置づけられている本科目の役割は、果たすために、受講学生全員の達成状況を上げることと、そのためには学生自身が主体的学習者として、関心をもち、上位学年の学習意欲につながることを目指して授業改善を図っていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小児看護方法論	2	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護の必須科目であり受講動機も約99%が必須科目であると回答をしている。学生の準備性としては、本科目への関心は4.9% (4人)と少ない。子どもに接する機会があまりなく、イメージが付きにくいいため学生にとって、健康な子どもも理解しにくい学生がいる中、健康障害をもつ子どもや入院中の子どもの姿はさらに想像しにくいと考えられるため、視聴覚教材の活用をできる限り取り入れた講義内容にしている。また、実際の社会の中での子どもの健康問題に目を向け他者の意見にも耳を傾け自らの意見、考えを発表できる場を取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均値は85.4点であった。70点台(良)が16名で、80点以上は80名（秀：24名、優：58.3名）と約83.3%の学生が理想的レベルに到達していた。成績評価では、知識理解に関して81.6%、思考判断については86.6%が理想的レベルに達していた。方法論では、グループワークを取り入れており、グループメンバーの構成によっては、個人的にはまだ十分思考判断力が付いていなくてもグループの成果物としてのレポート評価が良いために個人の全体評価がやや高くなることも影響していると考え。講義後は、わからないところなどの質問を挙手、あるいは毎回配布する質問感想表に書いてもらうことで具体的に学生の疑問に答え、難しいと感じているところわからないところを補足説明をしているが、引き続き学生へのフィードバックを丁寧にやっていく必要があると考える。意欲関心については、学びを深めたいと意欲を持つ学生が多く、この先演習や実習まで持ち続けられるよう繋げていきたい。また、職業選択の参考にもなっているということと、引き続き臨床での看護師の姿や役割が見えるような授業の工夫を行ってきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「看護実践の応用・展開」にあたる教科である。「看護を学ぶための基礎」や「看護実践の基本」を踏まえ、対象となる小児に対する看護の基本的な考え方や子どもの成長発達といった特徴を学んだ後、さらに健康障害をもつ子ども達の看護を学ぶための科目となっており、必修科目である。授業に関心を持っていた学生は少なかったが、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解は81.6%、思考判断は86.6%と目標はおおむね達成されており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」に対して、少しそうでない2名と説明に対する理解が十分できないと思う学生もいることから、ほとんど毎回質問感想表の受け渡しをし、学生の質問には文書あるいは口頭で答えてきたつもりであったが、まだ十分説明が理解できていない学生がいるということかもしれないので、さらにわかりやすく、説明の仕方も具体的な例や、視聴覚教材、図・表等を用いるなど配付資料の工夫を引き続き検討していきたい。また、レポートの評価基準が大きくなりでしか提示されなくて、あまり明らかでなかったとする学生もいて、もう少し細やかな点数配分等を提示していく必要がある。講義形式のみでなく課題を与えグループワークを入れることで、図書館の活用やグループ内での議論から、いろいろな意見・考え方を知ることが出来、学生にとってはいい学びになっていると考える。今年度も昨年同様参考文献の内少なくとも1つは図書館から利用できる学術データベース（医中誌WEB等）を使った文献検索を指定することで、一度を自分で文献検索を実施できるよう意図的に課題を提示した。それでも37人の学生がそれらを利用しなかったと答えており、グループの他のメンバーに任せて（分担？）いる現状も見られているため、さらに個人学習としての情報の取り方を含めた意図的な方法をグループワークの進め方に組み込んでいくことも検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「専門教育科目」のなか「看護実践の応用・展開」で、子どもを対象とした看護の方法論を学ぶ本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については標準的レベルには達成できた。これを理想レベルに上げるため、わかりやすい講義の方法、内容の絞り込み等の検討を行い学生の理解度を上げていきたい。また、適宜確認テスト等を行うことで、知識の理解度を確認し定着できるよう説明の追加等を行っていくことが必要と考える。さらにレポートの評価基準をルーブリック等の利用で詳細提示し学生がわかりやすいような工夫を取り入れるようにする必要がある。 授業では、病児や入院生活等をイメージしやすいように学生に好評だった視聴覚教材の活用を継続し、また他の学生との話し合いの機会を適宜盛り込むことで、自分の意見を述べる機会を増やし、他人の意見を聞き討議できる機会を引き続き設けていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護方法論	2	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は看護実践の応用・展開科目であり、3年生で学習する母性看護学演習やその後の母性看護学実習につながる基本となる重要な科目である。そのため、学生が3年生の講義につながっていることを自覚し講義に臨めるように、関連づけて講義内容を説明してきた。 講義では、周産期における女性の妊娠分娩産褥各期および新生児期における身体的・心理的・社会的変化を中心に学ぶことになるが、周産期各期の変化は大きく、理解すべき知識や支援方法もかなり多い。そのため、できるだけ重要ポイントがおさえられるように、講義資料を前もって配布し、予習に活用し、準備を整えて学習に臨める環境を整えた。また、パワーポイントに示す資料も文字だけでなく、写真や図を使用したり、配布資料だけでなくDVDなどの視聴覚教材や模型などを活用し、学生が妊娠褥婦、新生児の生理的変化をイメージ化できるよう工夫した。 さらに、配布資料に教科書や参考文献のページを示し、講義後でも復習に取り組みやすくなることを意図した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	どちらともいえない		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は71点であった。理想的レベルを概ね60点以上として試験を作成し、再試対象は20名であった。再試受験者はほぼ全員が標準レベルに達した。 目標別にみると、知識理解73%・思考判断55.5%であり、知識理解については標準レベルを上回っていた。思考判断に関する問いについては、アセスメントするために応用できるかを問うものであり、周産期にある対象者の実際のイメージ化が難しい学生にとっては理解しがたかったと思われる。また、重要な言葉やデータ基準については記述式としたため、知識や理解が不十分である場合は正確に表現することが難しかったと考える。しかし、80点以上の学生も30名ほどみられ、目標は、ほぼ達成したと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必須科目であることから本科目を履修している。応用・展開科目であり、知識理解は目標達成されており、さらに、思考判断については更なる方法的に改善の余地はあるものの、3年生に向けて必要な知識はほぼ得られていると思われ内容的には妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価では、90%以上の学生が知識理解や思考判断の観点で達成できたとしている。しかし、再試験者があったことや40%ほどの学生が予習や復習をしていないと回答していることから、今後も日々の学習の積み重ねの大切さを意識できるような働きかけを行っていく必要があると考える。また、毎回きかれるように、周産期はイメージが難しいこともあり、学習の難しさにつながっているとも推測されることから、今後もより具体的な事例や聴覚教材を活用し、学生が得た知識を3年生の講義につなげ活用していけるように努めていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護の実践の応用・展開科目であり、今後の関連科目につなげて活用していくために必要な基本的な知識理解や思考判断は概ね達成できた。イメージが難しい反面、女性として自分自身の問題として取り組みやすい科目でもある。しかし、受講動機では関心のある内容と回答した学生が4.75%であったものの講義中は、興味をもち、意欲を持って学習に取り組んでいる姿勢も見られた。昨年よりは再試験者は増加したことはや学生間での成績格差が目立つことから、全ての学生にとって効果的となる教授方法を検討していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人慢性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年生前期科目である「成人看護学概論」を基盤に既習の疾病学や形態機能学などを実践応用し、成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けた看護活動を展開するための科目である。本科目は系統看護学として発展し、看護実践方法について疾病学と関連させながら健康障害が生体反応として、どのように生活者に影響を及ぼすのか、健康障害のメカニズムと特徴を踏まえながら看護について思考・判断ができることを意図している。学生は実習体験も浅く、疾患と健康障害によるイメージかつきににくいこと、また病態理解も乏しいため、イメージ化が図られ、疾患の理解や状況に応じた看護の方向性を意図し、具体的に説明を加えながら授業をすすめた。成人急性期看護方法論の進捗状況や他領域の学修内容も併せて確認し、授業運営をした。学生には毎回、授業の学びや気づき、質問を記載してもらいフィードバックを心掛けた。領域の特殊性もあり科目の対象範囲も広く、中間評価を行い学生の到達度を確認した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合評価は平均点69点で昨年度より1点程度下回った。最高点は87点であり、達成度が低く理想とするレベル(概ね80点以上)は11.2%の到達であった。再試対象者は13名で、再試験の結果全員が標準レベルに到達することが出来た。到達度自己評価においては平均3.7～3.8であった。授業評価において「まあまあ理解しやすいものであった」が99%と肯定的評価をしている。主体的学習姿勢においてはあらかじめ授業計画を立案したり、予習や復習に時間についても約50%以上が全くしていない状況である。図書館の利用については60%の利用がみられている。授業進行とともに学習課題やそれ以外の主体的学修が深まるよう検討する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は成人期にある慢性疾患を抱えている対象特性の理解から始まる専門科目の看護実践の応用として位置づけられている。必須科目であり、既習の疾患理解や疾患による生活への影響など、状況理解と看護支援の基本的な考え方など具現化でき、そして看護実践の理解が深まることを求めている。受講動機では資格取得に必要と答えた学生は8.8%(8人)で、興味関心があると答えた学生は3.3%(3人)であった。3年次から始まる各看護学実習の展開においては基盤となる科目であり、内容や位置づけは妥当と言える。 ②DP,行動目標からみた内容の妥当性 本科目の行動目標として慢性病を持つ人とその家族の特徴や日常生活に与える影響、QOLを目指した援助のあり方や、自己の健康管理について述べる事が出来るとしている。これらの「知識・理解」の達成度は68.3%、「思考・判断」が65.7%であった。また、「関心・意欲」については91.6%であった。「思考・判断」の基盤となる知識の定着と、実践応用に向けた「アセスメント力」について継続的に強化していくことが課題である。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性は問題ないが、学生の知識、思考・判断力の育成を継続的に行って行く必要がある。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生は授業の進め方について「授業のポイント」を求めることが多い。事象に関連づけながら講義を進めるが、「考える」、「自身で考えたことから導き出す」という段階が辿れるように時間を確保すること、学生の主体性を促し、「討議」できるような共同学習のあり方とまたそれに結び付くような学習課題の提示等、一連の課題について検討を加えていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は2年生後期科目である「成人看護学概論」を基盤に系統別看護学として発展したものである。既習の疾病学や形態機能学など実践応用し成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けた看護活動を実践するための科目である。看護実践能力の中でも思考・判断が必要とされるため主体的学習姿勢が継続的できるように、また思考の方向性を確認しながら時間を確保し、演習を取り入れるなどの授業の展開(構築)について改善を図りたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人急性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、3年次開講の成人・老年看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。学生の受講動機をみると、「必修科目である」98.9%、「資格取得に必要である」10.0%、「関心のある内容である」3.3%で、関心のある内容であると回答する学生が少ないことが分かる。 ②本科目は、形態機能学、疾病各論、臨床検査など既習の科目と関連するため、学生が想起することができるようにテスト形式や質問をしながら講義展開を行っている。手術により切除することでおこる機能障害の理解および看護につながるように講義展開を行っている。 ③講義では、麻酔後の看護を考える際に、実際の写真、DVDなどの媒体を使用して学生が理解できるように工夫を加えた。また乳がんモデル人形などを使用し、学生が実際に触れて考える機会とした。さらに、家族あるいは知人に乳がんモデルで得た知識をもとに指導体験を行い、理解に繋がるようにしている。 ④2名の教員がオムニバスで展開を行っており、それぞれが課題を提示して学生の理解を深めるように努めている。今回、課題内容を3年次前期の「成人・老年看護学演習」および後期の「成人急性期看護学実習」に活用できるような課題に変更した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本科目の登録者は97名であった。本試験成績の平均値は、73.2（±7.6）昨年度71.7（±10.0）で上昇した。本試の判定では、A判定（90+）2名、B判定（80-89）20名と昨年度の25名比べて減少していた。C判定（70-79）51名、D判定（60-69）16名、E判定（59-）8名であった。8名の再試験者の内、7名は再試験にて履修したが、1名は放棄であった。標準的レベル（70点以上）に達した学生は75.3%（昨年度62.1%）、理想的レベルに達した学生は22.7%（21.6%）であった。 ②DP観点別の成績は、DP1-2（知識理解）は、42.4/55点で得点率77.0（昨年70.9%）、DP2-1（思考判断）は、26.5/40点で66.3%（昨年度70.7%）低下していた、DP3-1（関心意欲）は4.3/5点（0-5点）で86.6%（87.6%）であった。学生は事例をもとに判断をする問いに対しての正答率が悪く、知識を応用して思考するのは難しいようである。 ③学生の「到達度自己評価」の平均値は3.7（3.6-3.8）であった。97.8～100%の学生は「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。1～2名の学生は「少しそうでないと思う」と回答していた。 ④授業の質評価の平均値は3.7で、9割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。 ⑤学習量の評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、55.9%（昨年度74.2%）・55.9%（昨年度74.2%）であった。自由記述から、授業以外の課題以外に具体的に取り組んだ学習は、「復習した」「分からないことを調べた」と自主的に学習する学生もいた。しかし、予					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は成人看護学急性期看護を学び、3年次前期の成人看護学演習（成人急性期・慢性期の看護過程や技術演習）や後期からの実習に繋がる科目の位置づけとして内容は妥当である。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果などから、科目内容は妥当であると考えている。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果より、授業工夫の一定の成果が認められた。次年度も今年度の授業内容を基盤に学生の意見などをもとに検討を加える。 ②自由記述に課題の説明が分かりにくかったという意見が聞かれた。しかし、昨年度と同じ課題提示であり、なぜ今年度の学生の反応は悪いのか、確認と説明方法の検討が必要である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、その後の成人・老年看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。そのため、急性期特に周手術期の看護について、系統別に講義展開をしている。そのため、範囲が広く、内容も難しいと考えられる。今後とも既習の知識を想起させながら急性期特に周手術期の看護の理解を深めるためにDVDや事例を用いながら学生がイメージできるように工夫をしていきたい。さらに3年次の演習や実習に応用できることを意識した課題を提示している。課題内容の説明方法の検討を加えていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
老年看護方法論	2	後期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期「老年看護学概論」で、高齢者の生きがいやサクセスフルエイジング、高齢者看護の理論について触れ、2年間を通して学べる事例を提示し、継続的にそれを利用しながら後期「老年看護方法論」で技術的な側面を中心として展開し、知識の増加や学習の深まりを実感できるようにした。 3年生の看護過程の展開での学生の自己学習の負担を軽減でき、対象の理解や看護実践についての学習を促進し、臨地実習への準備状態が高まることを期待している。 また、講義内容に関連した課題学習（栄養指導、褥瘡予防ケア、排泄自立支援、肺炎予防、聴覚障害、災害支援）を評価対象とし、優れたレポートを講義内で発表・紹介したことで、回を重ねるごとに提出物全体の質が向上した。 昨年度は定期試験で自作まとめの持ち込み可としたところ、今年度学生が当初から「持ち込み」を前提に授業に参加している様子であったため、「持ち込み不可の記述式テスト」とし、10月頃から通知したところ、昨年度の持ち込み試験よりも得点が向上した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、 「学習到達度の自己評価」、 「学習量の評価」、 「学修のための情報利用」、 「図書館、インターネット利用」、 自由記述の意見など	本科目は、定期試験と提出課題とその他から総合的に評価され、平均点88.3点、標準偏差0.7 最低66点最高99点であった。秀46名、優39名、良9名、可3名で不合格者はゼロであった。筆記試験だけについてみれば、平均点87.5点、最低60点最高100点で、持ち込み不可の記述式試験であったにもかかわらず、学生の学習は深くなされており、知識の定着がしっかり確認できた。 そもそも老年看護学に必要な知識が少なくなく、教科書に収載されていない新しい事実も多いため、提示している資料が多いことを考慮すると、学生はそれを修得するために努力していると考えるが、授業評価における自己評価の平均が3.7～3.8で高くない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	高齢者看護技術は日進月歩であり、診療報酬制度で新たに保険収載されるものが常にあり、看護師として求められる知識、技術を常にup-to-dateしていく必要がある。これに応じた授業構成にするためには、既存の教科書では不足であり、現在の医療や国家試験問題、今後の高齢者を取り巻く環境をふまえてよく調整されていると考える。また、卒業後も自律して学びを継続できる基礎力の醸成に役立っていると考える。課題学習、定期試験のいずれにおいても、知識の獲得、思考の展開、意欲関心の明確化を確認できた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価項目は全体的に「まあまあそう思う」3割、「わりにそう思う」5割、「かなりそう思う」2割であり、「かなりそう思う」とならない理由について、他の教員の講義の運営方法を参考にするなどして改善に努めたい。それと共に、学生が自己の成長を確認できるよう、評価承認を与える工夫をしたい。 学生自身が老年看護学で学んだことを自覚し整理できるように、教育内容の一覧表を作成し配布した。学生が興味のある高齢者看護技術を取り入れるなど、高齢者看護のイメージを築くことにも努力したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	当初期待した以上に、学生は課題に熱心に取り組み、定期試験でも優れた成績を修めたことをフィードバックしたい。学生に期待することの水準を下げるのではなく、到達を支援できる方法を教員として継続的に工夫していきたい。 方法論に用いていた2冊の教科書の内容に重複があるため、老年看護技術の教科書を変更し、さらに、様々な評価スケールが一覧できるハンドブックを新たに選定した。学習や実習を効率的に進められると考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神看護学概論	2	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が98.9%、次に「資格取得に必要である」が6.8%となっている。「関心のある内容である」は3.4%であった。昨年度は「関心のある内容」が5.6%であり減少している。授業内で精神看護に関心を向けて受講できるようにメンタルヘルスに関する身近な話題やDVDの視聴などを取り入れ関心が高められるようにしている。 ②本科目は、心の健康を保持・増進するための援助法の基礎科目である。精神看護は、人との関わりがケアの基本となることを理解し、精神的援助のあり方を強調した。 ③能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について振り返らせ、こころの発達について理解を図った。 ④国家試験対策の一環として、国家試験問題の解説を課題にした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は71.4点であった。昨年度は74点であり、試験内容の難易度は変わっていないため理解度がやや落ちたのかもしれない。再試対象は7名であった。92.8%が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは16.7%であった。成績の内訳は、A（秀）が0%、B（優）が16.7%、C（良）が44.8%、D（可）が31.3%、不可が7.3%であった。学生の到達度自己評価は、3.4～3.7で概ね肯定的な評価であった。そのうち知識・理解における自己評価は3.7、思考・判断に関する項目も3.7であった。授業毎に国家試験対策も兼ねて例題を1問以上解説したことは刺激になってよかったのではないかと考える。レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやってきている点はよかった。図書館の利用率は67%で、昨年64%に比べ、やや上昇傾向にあり努力が伺える。知識習得に対する自己評価は高いが、確実に獲得しているとは言えない層が半数いるのではないかと考える。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学概論は、看護師として必要な精神看護全般に必要な知識と、精神看護方法論につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神科の専門用語の理解が学生にとって難しいイメージがある。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。国家試験を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から90%以上の学生が標準的レベルに達している。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の平均は3.72であった。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.4で他の項目より低めであった。グループ発表の機会を取り入れているが、もっと参加型の授業の工夫が必要と考える。しかし、学生の学習量は多いとは言えず、全く予習復習をしていない学生が43%存在するのは問題である。学生の意見として、「忙しい」「時間がない」「いっぱいいっぱいだった」という意見が出ており、他の科目の課題も重なっているためだと思われる。学習時間を確保できている学生は多いとは言えず学習習慣の定着ができていない。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。日常的学習習慣を全員が身につけることが課題と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識を学んだうえで、精神保健と精神看護全般の基礎を学ぶ科目である。基礎知識の形成についてはおおむね達成できたと思われる。精神症状のイメージがしづらいことや、専門用語が難解であり、学生にとって理解しづらい科目であったかもしれない。できるだけ精神疾患を持つ人やその家族の状況が想像できるように、書籍を読み感想を書くことを取り入れた。最初は理解しづらいようであったが、回数を重ねるごとに心情の理解が進んだように思う。今後も事例を多く取り入れることや、ディスカッションする時間を増やすなどで思考する時間を増やしていきたい。精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本につながっていくため精神科看護に興味関心が高まるような授業内容の検討・改善を行いたい。学生の私語が多く、注意を重ねなくてはならず、まじめに授業を受けようとしている学生に迷惑が掛かった。学生は主体的学習態度で授業に参加してほしい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神看護方法論	2	後期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が98.9%、次に「資格取得に必要である」が10.1%となっている。「関心のある内容である」は1.1%であった。関心度は昨年の3.8%と比較し下降している。授業内で精神科看護に関心を向けて受講できるように、書籍を読んでもらったりしたが更なる工夫が必要と考える。しかし、実習に出るための必須科目であるため学生はそれなりの準備性は持って受講していると思われる。 ②本科目は、精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を強調した。 ③精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材DVDは、マイナスのイメージが強調され学生に無駄に恐怖心を与えるため使用せず、テレビやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。また、実習における看護学生と患者との良好なかかわりの具体例を示し、ポジティブなイメージをもつように心がけた。 ④国家試験対策を意識したノート整理の課題を出し、基礎的な知識を確実にするように努めた。課題として国家試験問題を解かせ、解説を記述させた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は70.0点であり、昨年と同じであった。一昨年の平均と比較すると-4.3低くなっている。再試対象は13名であった。87.6%が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは13名であった。成績の内訳は、A（秀）が2.1%、B（優）が11.5%、C（良）が46.9%、D（可）が27.1%、不可が12.5%であった。 学生の到達度自己評価の平均は3.73でほぼ達成されたと思われる。学習量は、30分以上の予習・復習をしていないと答えている学生が半数存在する反面、レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやっていた。しかし、内容が不足している学生もあり、指導を要した。図書館の利用は62%の学生が利用したと回答していたが、精神関連の書籍を読む課題を出していたのでもっと利用しているのではないと思う。国家試験に関する課題を組み入れたことで、知識習得に対する自己評価は高かったが、テストの結果に十分つながったとは言えない。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。ポートフォリオで整理させたことは試験対策に役立ったのではないかと考える。知識習得に対する自己評価は高いが、確実に獲得しているとは言えない層が30%ほどいる。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学方法論は、精神科看護の展開において必要な知識と、3年生の精神看護学演習および精神看護学実習につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神疾患を持つ患者の理解が学生にとって難しいようである。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生ははじめに学習に取り組んでいる。国家試験および実習を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からは、88%の学生が目標を達成した。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していたと推測する。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	精神看護学概論では何をしようかわからないと言う学生の意見もあったが、方法論では、学習の進め方が具体的になり、ノートまとめや疾病学の学習、教科書をよく読むなど、学習に対する姿勢が能動的な方向へ変化してきた。レポート提出期限は全体的に守られていたが、内容が希薄なものもあったので指導を行った。 30分以上の予習・復習をしていないと答えている学生が半数存在するため学習習慣が身に付いていないと考える。全体的に学習量は多いとは言えず、更なる主体的な学習を期待する。授業以外の学習に取り組んでいない理由としてとして、「忙しい」「時間がない」「試験勉強の仕方がつかみにくい」という意見が出ているが、個人差があると考え。授業以外に学習に取り組んだ学生は、「予習・復習、テキストをしっかりと読む、調べる」などでできている。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。日常の学習習慣を全員が身につけることが課題と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識と、精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本を学ぶ科目で。本科目の知識は、3年生の演習、実習の基本になるため、精神科看護に必要な基礎的知識の理解、思考の理解が望まれる。近年のストレス社会において、精神疾患を持つ人が増えており、教授すべき内容も増えた。知識が十分ではない学生、思考の整理が不十分な学生も多々存在するため、3年時の精神看護学演習でそれらを補えるようにしなくてはいけない。国家試験を意識させた方が学生も真剣に取り組む傾向にあるが、知識に偏ることなく、精神障害を持つ人の気持ちに寄り添い、看護の応用・展開につながるようにしなくてはいけないと考える。学習の基本が身につけていない学生に対して教科書をよく読む、自分でノート整理を行うなど基本が必要と考え、課題として実施したが困難な学生も数名いる。学習の習慣がついておらず、勉強の仕方がわからない学生が増えている印象がある。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護マネジメント総論	2	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護マネジメントとはイメージを付けにくい無形サービスである。このため、図や具体例を用いて、学生がイメージできるように看護マネジメントの意味、目的等の理解に努めるように努力した。その後、このような組織による管理運営が必要な背景である日本の医療や社会保障の問題へとつなげ、学生が最もイメージしやすい「医療安全管理」を具体事例に、病院組織の概要やその役割、そしてこのような組織の中での看護の役割へと授業を展開し、イメージができるように心掛け、看護マネジメントの基礎知識の修得を図った。 次にこの科目の中で、医療安全の基本知識も教授した。「医療安全」の領域は昨今の医療現場の実情を鑑み国家試験の出題数も増加傾向であり、看護管理とリンクしている箇所も多いためである。また「医療安全」のみの授業を展開している大学も複数存在しているからである。よって「看護管理」と「医療安全」の両テキストを購入してもらい学習を進めるようにした。医療安全の学習に関しては、臨床現場で活用されているKYT（危険予知トレーニング）を導入し、グループワークや課題を提供しながら、医療事故が発生するメカニズムの理解を図った。学生からはわかりやすかったという自由記載意見もあり、ある一定の理解へとつなぐことはできたのではないかと考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の達成度評価は、試験：70%、レポート等で30%による総合評価としている。最終成績の平均値は71.6±7.19点（最高90点、最低53点）であった。成績の内訳は、秀1名(1%)、優16名(17%)、良46名(48%)、可30名(31%)、不可3名(3%)で、再試験の結果1名が再履修となった。学生による授業評価では、「自分なりの目標を達成した」(3.8)で、それ以外の到達度自己評価は3.9～4.1で推移した。昨年度は再履修は存在せず、授業成績の平均値も今年度よりも約2点高く標準偏差も今年度より小さい状況であった。よって知識理解としては今年度の方が課題が残ったといえる。 思考判断を問うため「医療安全管理」の学びを活用して「感染防止管理」に関するレポート課題を提示した。レポート評価はループリック評価を活用して15点評価で行い、平均は11点であったが、最低点は4点であり既習知識を活用して記述できる学生とできない学生の二極化も見えた状況であり、思考判断は「やや達成された」と評価する。意欲関心に関しては学生の意見として「学習する時間がない」を4件認め、学習量として役半数の学生が準備・復習ともに0回であった。しかし授業には全員必要時間以上の出席を認めており、「やや達成された」と評価した。学生は授業には真面目に参加し、私語や居眠りも少なかったため、態度は「達成された」の評価でよいと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はカリキュラムマップ上、基礎看護学領域の履修が終了し、各領域の履修開始前後に行われる。3年次の長期各論実習を鑑み、この時期に組織等を考える看護マネジメント総論があることは位置づけとしては妥当的と考える。学習到達度の自己評価より、学生は看護の専門分野において、課題を検討する力の取得、的確な判断力、意欲や技術の習得、コミュニケーション力、ルール遵守、職業選択において3.9～4.0の自己評価を行っている。専門科目として知識の定着面、思考面において、ある一定の内容の妥当性は保証できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、1部分を除いて他は肯定的な評価であり、全項目の平均値が4.0以上であった。しかし半数の学生は予習・復習を行っておらず、昨年度と比較すると学生の自己学習時間が短縮傾向にあり、図書館等の利用・活用状況も年々低下している。学生より「試験前に課題を出さないでほしい」という自由意見を1件認めたが、思考能力を高める、学習の基盤を構築していくためには必要と考える。課題は60分程度で解決できる内容であり、今後も継続する予定である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生による授業評価としては、すべての項目で3.9～4.1であった。最終成績の平均値は71.6±7.19点（最高90点、最低53点）で、成績の内訳からみても昨年度よりは、学生の理解状況は低下傾向にあると考える。ある一定の学習到達度は達成できていると考えるが、学生の知識理解レベルを考慮し、今後も授業内容を改善していく必要があると考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際保健論	2	後期	選択	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	身近な話題から世界にも目を向けられるように、北九州市に暮らす外国人に関する情報、教員が行った海外での調査についての写真やデータ、テレビ番組や書籍で紹介されている様々な国や地域での暮らしや文化について紹介した。 「しおり2018異文化との出会い42」外国につながる人々たちへの看護の困りごとマップを教材とし、学生同士のディスカッションと、アンケートへの回答により、どのように対応したらよいかを自身の課題として整理した。また、将来看護師として外国につながる人々たちへの看護に役立てられるように、「看護英語ノート」または「食文化ノート」をグループに分かれて制作した。なお、実際に学生が作成した看護英語ノートは、十分な情報検索によらないものが多く、状況を理解するための情報、看護師としての説明（日本語）、説明（英語）の全てをこちらで改めて制作した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、個人課題の提出、グループ課題の提出、発表、授業内小テストの総合評価で、最終的な履修者は55名で、合格者は54名であった。合格者の殆どは、全ての課題を提出し、グループ課題についても担当分野について情報検索やディスカッションを通して、クリエイティブな活動ができていた。平均点86.8点、標準偏差7.0、最低53、最高90、秀23名、優28名、良1名、可2名、不可1名であった。良・可・不可の学生は、課題提出や発表への出席、小テスト受験が達成されていないことが低い評価の原因である。 授業評価では、全ての項目にわたって「わりにそう思う」25%、「まあそう思う」20%弱、「かなりそうだと思う」5～10%程度であり、学生の達成感が得られるような工夫が必要と思われる。 実際には、学生は文化背景の異なる人の存在や、それによる暮らしの違いについて反応し、理由を調べ、理解し、対応する術を少し見出したとは思われるが、実践的に確かめられないこと、十分でない情報や理解を知る機会がなかったと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生が制作した「看護英語ノート」は、今後印刷して学生に配布する予定だが、将来にわたって、全く同じような状況ではなくても、文化背景の異なる患者と遭遇した時の対処についてヒントが得られると思われる。この作業の出発点に関わったこと、その作業を発展させると、教材が完成するということを体験できたことはよかったと思われ、意欲関心を高めることができたと思う。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	当初予定していた課題提出を5回から2回に減らしたので、講義や資料の分量を考慮して、課題を計画すべきであった。 看護英語については、シラバスの記載と科目ガイダンスで示した通り、小テストを実施したが、もう少し時間をかけて修得できるような時間配分を検討する。 次年度は、単元ごとの教材を明示し、そこから何を学ぶのか毎時主題を明らかにして、学生が知識の習得を実感できるように工夫したい。 身近な外国人と保健師の活動、世界の医療制度と医療従事者、葬送儀礼・死生観、疾病の成り立ちと生活・気候、異文化看護理論、病院内の患者サービス、言語的障壁と医療通訳、職員ダイバーシティ、国際援助活動に内容を絞る。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度より「国際看護」の教科書を用いた。情報が整理されており、効率的に知識を習得することが可能であったと思われる。また、ディスカッションやグループ学習活動を通して、異なる文化背景をもつ人々への対応について考える時間が多く持てたことはよかった。授業評価とは別に行ったアンケートでは、この学修をどう役立てるかについての記述が多くあり、成果があったと考える。 統合科目としての国際看護をふまえ、国家試験出題基準にも対応できるようにしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護方法論Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保健師課程必修科目である。受講動機をみると、前年度では「必修科目である」15.8%（前年度58.5%）、「資格取得に必要である」94.7%（前年度82.4%）であった。前年度は保健師課程履修者のみの受講であったが、今年度より選抜前に開講されるようになったため、必修科目の動機の割合は低下した。「関心のある内容である」では前年度0名であったが、今年度は5.8%であった。保健師課程選択を考え、資格取得のために受講するという動機が大半である。開講学年が3年次から2年次に早まり、学生の「学修準備性」について事前の把握が不十分であった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績平均値は82点であった。客観的評価をDP別に見ると、思考判断は83.5%、課題発表を通しての態度79.1%であった。思考判断では、試験では基本的な知識、事例の情報収集及びアセスメント、地域の健康課題を解決するための地区活動、事業計画、施策化に関する判断を問うものであったが、到達度は80%であった。学生の評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「職業選択の参考になった」3.8、次いで「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分なりの目標を達成した」3.7と続いた。全項目とも3.6-3.8に位置しており、客観評価と学生評価との差がみられるため改善が明らかである。 図書館、インターネット利用については、66%(前年度90%)の学生が利活用したと回答し前年度より20ポイント以上低下した。また、学習量では、前年度は「30分以上の準備」0回と回答した者が33%いたが、今年度は19%で、事前課題に臨んで授業に出席していると考えられた。「4、5回」「6回」と回答した者の割合は38%（前年度50%）であった。授業評価では課題が多く、授業以外の課題以外に取り組んでいない学生もいる。今後は、課題量を検討し、学生の主体的な学習環境をつくる工夫が必要である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 受講動機で最も多い「資格取得に必要な科目」にもあるように、本科目は「専門応用科目」のなかでも、「公衆衛生看護関連科目」に位置づけられており保健師課程の必修科目である。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 学生にとっては保健師課程履修選択を希望あるいは検討している時期である。新設科目であり、開講時期も異なるため、前年度との比較は行っていない。授業の質評価について、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」3.6、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け、それに答える機会が作られていた」3.5、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」3.4の順であった。「説明の理解しやすさ」は最も低く3.2であった。また自由記載欄には「もう少し詳しい説明をしてほしい」との要望があった。今後は、授業で丁寧な説明の工夫を改善する必要がある。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方について、「説明の理解しやすさ」3.2や「テスト、レポート、提出物の評価基準の明らかさ」3.3といずれも低かった。そのため、毎回の授業の説明内容の再検討を行い、同時に学生の理解度の確認を行うことを留意する。 学生の授業参加を促すために、話し合いの機会や質問に答える機会を作った。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け、それに答える機会が作られていた」では他項目よりも評価が高かった。しかし、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもったか」では3.6と低かった。そのため、意欲を高められるような方法の改善が必要である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	保健師課程に位置づけられる科目であり、看護師課程の基礎的知識を土台に、公衆衛生看護学の基本的知識と思考判断を修得する科目である。DPの到達状況からみると、再試験該当者はおらず全員が達成していた。学生の到達度自己評価では、新設科目のため前年度との比較はできないものの、意欲の面から思考判断、意欲の面では他項目より0.1-1.2ポイント低かった。今後は授業内容や課題提示についてわかりやすい説明を行い、また学生の学習意欲を高める方法を工夫し改善する。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は看護師課程は選択、保健師課程は必修の科目である。保健師課程の選抜試験が2年前期終了時に実施されることから、受講動機として「資格取得に必要である」が58.1%と最も多かった。「関心のある内容である」を受講動機にしてくれた学生が3人いたことは、大変うれしいことであった。看護を予防の視点や公衆衛生の視点で考えたり、病院看護職と地域の看護職の連携を考えたりすることは、これからの看護にとって必要不可欠である。今後も、より多くの看護師課程の学生に履修していただきたいと願っている。授業内容は、15回授業を「健康課題別」「ライフステージ別」の2つに区切って解説した。最初にシラバスの説明をしたためか、7割の学生が履修の参考にしていていた。また、3割以上があらかじめ授業計画を立てて臨んでくれていた。また、授業に参加するために1回30分程度の準備をしてくれた学生6割以上いた。選択科目であるが、意欲をもって受講してくれていた。 地域保健活動は、対象のライフステージや健康レベルがさまざまであり、病棟の看護に比べて対象をイメージしにくい。また、病棟の看護は患者に直接看護技術を提供するが、公衆衛生では間接的な援助方法を用いるため、テクニックとして表しにくい。何に、何を、どう支援しているかをわかってもらうためには、教科書は概念的すぎるため講義の予習復習の部分に使い、解説にはオリジナルのレジュメと、毎回、保健師ジャーナルから事例を準備した。授業評価では、授業の記録は「配布資料に記録した」がほとんどため、ポイントを整理するためには配布資料が有効であったと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		やや達成された	達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	科目成績は、平均点70.1点（昨年72.3点）、「秀」0人（昨年0人）、「優」3人（昨年3人）、「良」15人（昨年18人）、「可」16人（昨年8人）、「再試放棄」1人（昨年2人）であった。昨年と同レベルの試験問題だが、今回、平均点で約2点下がっている。「優」「良」は昨年とほぼ変わらないが、「可」が増えていることは、授業の解説がわかりにくかったのか、実力を発揮できなかったのか、学習意欲が出なかったのか、と反省している。内容を見ると、「思考・判断」を問う問題に点数のばらつきが見られた。講義の終盤に、ぜひ、理解してほしい内容を、学習の整理をするポイントとして提示した。質問に来た学生もあり、自分で理解するレベルまで詰めて学習した学生は高得点を得ているが、うろ覚えで終わっている学生は記述できなかったことが原因と考える。しかし、「自分なりの目標を達成した」が平均4.1点と他の回答より高く、学生の自己評価は高い。 授業では、小グループでワークシートをもとにディスカッションする時間を作っていたため、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で平均4.1点と、学生の自己評価は高かった。ディスカッションに真剣に取り組んでくれていたことがわかった。これからも、ディスカッションに参加し、視点の広がりを得られるようにしていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、論理的な思考判断（DP2）、看護職として学び続ける意欲関心（DP3）、倫理に基づく行動と多職種連携の態度（DP4）を目指している。あらゆる年代、あらゆる健康レベルの対象から共通した健康上の課題を捉え、個別・集団・地域のアプローチを組み合わせる支援する内容である。基礎となる知識は、多岐にわたり、各看護学の保健の部分に加え、健康科学や社会学も必要である。それらをもとに「思考判断」し、社会の動きを常に学び続ける「意欲・関心」を持ち、保健・医療・福祉の領域と連携する「態度」を養う科目である。学生は2年前期で疾病論と各看護学領域の概論を学び、2年後期で各看護学領域の方法論と同時進行であったことから、かなりの難易度だったと思う。選択科目のため科目の優先順位が低くなると思うが、自主的に学ぶ習慣が身に付くように工夫していきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価をみると、1回も予習して臨んでいない学生が35%、1回も復習して臨んでいない学生が44%であった。この科目は、15回とも違う対象の支援方法を解説するため、前の授業を理解していないと全くわからない内容ではない。また、明確な課題として提出を求めたものが少ないことから、授業に臨むための行動として予習・復習につながらなかったと思われる。一方、55%が図書館の図書や雑誌を利用し、65%がインターネットで検索していた。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」について「わりにそう思う」68%、「かなりそう思う」が18%と、新たな知見を得ていたことは評価したい。公衆衛生看護学は、他の看護学と考え方の相違点が多いため、人を看護する視野が広がったと思われる。 今後は、主体的に学んでいく学生が増えるよう、動機付けしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は保健師資格のための学習であることから、方法論を解説するだけでなく保健師ジャーナルで公衆衛生看護で先駆的な活動例を紹介した。保健師ジャーナルは、専門雑誌であるため学生には難しい内容である。授業の最初の何回かは、取り組みの内容を理解するためワークシートを用意し、ポイントを説明しながら読んでいった。学生は保健師専門雑誌にある活動の実際に興味を示し、授業の後半になると、最低限の解説で内容を理解した。 保健師過程を目指している学生と、看護師課程の学生では、意欲と行動に違いがあるように感じる。この科目が看護師課程の国家試験に出題されている事、今後の看護活動は病院完結型では出来なくなっている事、看護師に必要な知識である事、をしっかりと意識させていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健	2	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科の専門科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。学生は、必修科目もしくは資格取得に必要な科目と認識していた。 この科目は、講義時間に対して学習内容量が多いため、学生に事前課題を中心にポートフォリオを作成させている。また、学生に発表や討論で、知識理解を深めるような場を設定している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な学生の成績の平均値は、63.3（±3.2）点であった。 学生のDP目標別にみる達成度は、知識理解が57.8%、思考判断が79.7%、意欲関心76.4%であった。 学生の「到達度自己評価」は、3.8～4.0であった。 昨年度の講義内容と大きな変更はないが、学生の知識理解が定着していない点は課題である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は看護学科の「専門教育科目」であり、養護教諭を志望する学生にとっては必修科目でもある。この科目は、「養護概説」の前の実施が望ましいが、看護学科のカリキュラムマップ上の位置づけからみて妥当と考える。 ②DP,行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみると、知識理解の達成度は低いが、その他の発表や討論は前向きに実践し、ポートフォリオの作成などの成果物からみて内容的には妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質評価」の平均値は、3.9～4.1であった。 学生の「学習量」は、準備と復習をしていないと回答した学生がいた。しかし、実際ポートフォリオで課題は提出されているため、実際の行動と学生の認識は異なっていた。 学生の「情報利用」について、全員がシラバスは活用していたが、計画を立てていない学生が25%いた。 学生の「図書館などの利用」について、インターネットは全員が利用し、図書も88%の学生が利用していた。 授業の進め方としては、大きく変更していない。しかし、学生の課題への負担感は大きかったようである。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	2年次の「専門教育科目」であり、養護教諭免許状取得に関しては必修科目である。学校保健の基礎的な知識を理解していく科目である。 養護教諭の職務に関する講義と連動させながら学校保健の知識理解を定着させられるように授業構成している。授業内容を大きく変更していないが、学生の到達度自己評価は、昨年度に比して低い傾向がみられた。今後、学生の授業進行を確認しながら進めたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
養護概説	2	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科の専門科目にあたるが、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。学生は、資格取得に必要な科目であると全員が認識していた。 この科目は、「学校保健」履修後が望ましいが学科のカリキュラム上、同時期に履修している。そのため、学校保健の進捗を考慮しながら養護概説の授業を進行している。事前学習を促進していくために学生にポートフォリオを作成させたり、講義だけでなく思考判断を深めるような演習を多く取り入れ、授業を進行している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績としては、73.6（±6.6）点であった。ほとんどの学生が「良」の成績であった。目標別にみる達成度は、知識理解が60.6%、思考判断が64.8%、意欲関心が80.4%で、技能表現が70.9%であった。 学生の「到達度自己評価」における平均値は4.0～4.3で、項目別に大きな開きはみられなかった。 学生の「学習量の評価」は、30分以上の予習に6回以上、ほとんどの学生が取り組んでいた。復習については、全く取り組んでいない生徒はいなかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は看護学科の「専門教育科目」であり、教職の養護教諭一種免許状資格に関わる科目である。看護学科のカリキュラムマップ上の位置づけからみて妥当と考える。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 成績評価からみると、知識理解や思考判断の達成度はやや低いが、発表や演習を学生は前向きに取り組み、ポートフォリオの作成なども努力がみられた。知識理解の面に課題は残るが、学生の自己評価からみて概ね内容的には妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「情報利用」のシラバスは全員が活用していたが、授業の計画は立てていない学生が多かった。 「図書館の利用」について、図書やインターネット利用については、全員が活用していた。データベースについては、活用した学生が多かった。 学生の「到達度自己評価」における平均値は4.0～4.3で、項目別に大きな開きはみられなかった。 学生の「授業の質評価」は、4.0～4.5で、項目に大きな差はみられない。 学生の「到達度自己評価」や「授業の質評価」から、授業の進行をみた場合、学生自身の満足度は低くないと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	2年次の「専門教育科目」であり、教職に関係している科目でもある。成績からみた達成度としては、基礎的知識が十分身についたとはいえない。しかし、学生の「到達度自己評価」や「授業の質評価」からみれば、学生自身の満足度は低くない。そのため、次年度も、講義に演習を交えるなど授業の工夫は継続させたい。基礎知識を復習することについて、学生に計画的に実施するように示したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職をとる学生が初めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした ②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していた。 ③前年のこの講義では、「『教育原理』なのに、教育のこととは関係ないことを説明されて、あまり理解できませんでした。」という意見があったので、人間理解が教育の基本原理だというような「常識」を丁寧に説明した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験成績の平均は70.00であり、全体の平均点62.47に比して7.53ポイント高かった。全体の平均も昨年よりほぼ10ポイント下がっているの、相対的にはかなりよかったと言える。故に他学科に比して非常に成績はよかった。理想的と言える80点以上の学生は19名7名であり、まずまずであった。 学生の自己評価でも、各項目に於いて「少しそうでない」というところに若干おり、「全くそうでない」と言うところには各項目1人がいた。同一人物かもしれないが、残念なことである。到達度の平均値は各項目3.2～3.6と昨年度よりも少しよくなっている程度である。授業に対する評価は3.1～3.5であり、昨年より少しはよかったのかもしれない。おそらく、私が血管運動性鼻炎が軽かったために、マスクをしなくてもすんだことが理由かもしれない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	事前に聞き取りにくいときは言ってくれるよう伝えたら、言ってきた。それで相応に努力したので理解されたのだと思う。わからないことを聞くスペースを毎回の課題提出のときに設けておいたので、役に立ててもらった。また、それに対して詳細な回答を全員に配布したことも良かったのだと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体的に良好であった。来年も維持できるようていねいな説明と対話に心懸けたい。